

ウルトラギャラクシー
クロスファイト
ニュージェネレーション
ヒーローズ&ヒロ
インズ

ベンジャーン

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

話の流れ事態はウルトラギャラクシーファイトと同じですが、そこにクリス達を加えた感じになります。

戦姫絶唱シンフォギアGinga、ウルトラマンX これくしよん、ラブライブ！

オーブ!!、ラブライブ！ ジードサンシャイン!!、結城友奈は勇者である R/Bの章のクロスオーバー作品。

目次

E P I S O D E 1	『襲撃』	—	1	
E P I S O D E 2	『新世代、アッセンブル』	—	57	
E P I S O D E 3	『反撃の時』	—	112	
E P I S O D E	F I N A L	『ニュー ジェネレーション』	—	145
設定集	—	—	184	

E P I S O D E 1 『襲撃』

OP 「Ultra Spiral」

戦姫絶唱シンフォギアGinga

ウルトラマンX これくしよん

ラブライブ！ オープ！！

ラブライブ！ ジードサンシャイン！！

結城友奈は勇者である R／Bの章

戦姫絶唱シンフォギアGinga×ウルトラマンX これくしよん×ラブライブ！
オーブ×！！ラブライブ！ ジードサンシャイン×！！結城友奈は勇者である R／Bの章

ウルトラギヤラクシークロスファイト

ニュージエネレーションヒーローズ&ヒロインズ

とある世界の山奥にて……………。

『ウグアアア!!?!』

「西崎 夜空（にしぎき よぞら）」という青年がメカニカルな外見をした巨人とユナイ
トして変身する戦士「ウルトラマンエックス」と、「栗本 無爪（くりもと なつめ）」と
いう青年が変身した鋭く青い目つきをした巨人「ウルトラマンジード プリミティブ」
の2人が突如吹き飛ばされ、2人は岩山に激突した。

『こいつ等、僕達の偽者のくせに強い!!』

『どうやら、私達の光の力を闇のエネルギーで増幅しているようだ……………』

2人が戦っているのは……………自分達にそっくりな黒い巨人、1人はエックスに
酷似した「ウルトラマンエックスダークネス」、もう1人はジードに酷似した「ウルトラ
マンジードダークネス」であり、ダークネス達はジードとエックスにさらなる追撃を加
えようと攻撃を仕掛ける。

「提督!! エックス!! ジード!!」

そんなピンチに陥っている彼等を援護しようと三つ編みの黒髪の少女……………軍
艦の力を宿した者達、「艦娘」……………その1人である「白露型2番艦 時雨」は両

腕に装着された武器である主砲を構えてダークネス達に狙いを定めるのだが……。

「余所見はいけないなあ？　まだ僕と遊んでる途中でしょ？」

「くあっ!!」

突如、彼女は何者かの跳び蹴りを喰らって吹き飛ばされ、地面を転がる。

「くっ、君たちは……一体何者なんだ？」

時雨は地面に倒れ込みながらもなんとか立ち上がり、自分を蹴り飛ばした相手を見る。

そこにいるのは髪、肌の色などが白く、服も殆ど同じだが少しポロくなっていて全体的に白く、黒いラインが入っているだけでほぼ時雨と同じ姿をしているが、腕と主砲が一体化した少女……。「深海時雨」が不敵な笑みを浮かべながらそこに立っていたのだ。

「君は、その見た目からして深海棲艦かい？」

そんな時雨の問いかけに対し深海時雨は笑みを崩さないまま「ちよつと違うかな」と答える。

「そんなことどうでも良いからさ、かかっておいでよ。来ないならこつちから行くよ

!!」

そう言い放つと深海時雨は時雨に向かって一気に接近し、主砲を打撃武器として振る

い殴りつけようとする。

「っ!？」

なんとか時雨は素早く後ろに後退して避け、立ち上がった時雨も主砲を構えて深海時雨に砲弾を放つ。

だが、深海時雨はそれを手に装備した右手の主砲を振るって弾き飛ばし、左手の主砲で時雨に砲弾を放つ。

「うわああ!!？」

「時雨!!」

エックスと一体化・・・ユナイトしている青年「西崎 夜空」とエックスは深海時雨に苦戦する時雨に気づき、動揺・・・その隙にエックスダークネスに肩を掴まれて膝蹴りを喰らってしまう。

『グアアア!!？』

『シエア!!』

さらにエックスの胸部に何発も拳を叩き込んでいくエックスダークネス。

最後に回し蹴りを喰らわせ、蹴りを喰らったエックスは身体を回転させながら地面に激しく激突するように倒れてしまう。

『ウグアアア!!？』

一方でジードはジードダークネスに拳を振るうのだが、ジードダークネスはその拳を受け止め、逆にジードダークネスの放った拳をジードは顔面に受けてしまう。

『ウグッ!!?』

『ハアア!!』

さらにジードダークネスはジードの顔を左手で掴みあげると腹部に右拳によるパンチを繰り出し、次にジードの左腕を掴みあげて背負い投げを炸裂させる。

『シエア!!』

『グハア!!?』

そしてエックスダークネスとジードダークネスはエックスとジードを同じ場所に向かって投げ飛ばし、エックスダークネスは両腕をX字にクロスさせて放つ「ザナディウムダークネス光線」、ジードダークネスは両腕を十時にして放つ「レッキングダークネスバースト」をエックス、ジードに向かって発射。

なんとか立ち上がった2人は「ジードバリア」、「Xバリアオール」という防壁を出し、攻撃を防ぐのだが……。

『グッ……うわああああ!!!?』

バリアはあっさりと碎かれ、2体のダークネスの必殺光線を受けた2人は爆発の炎の中に消えてしまうのだった。

*

地球、香川県綾香市の山奥……。

そこではオレンジのラインのある一人の巨人……。「南 ヒナタ」という少女が変身した「ウルトラウーマングリージョ」が光線技の練習をしており、彼女は腕を十時に組んで放つ光線「グリーンジョシヨット」を岩山に撃ち込んで砕いていた。

『えいー!』

「おおく、ヒナタちゃん大分光線技上達したね〜」

「最初の頃は光線が跳ねたりして大変だったものね」

そんな彼女の様子を眺めているのは赤い髪で元気いっぱいといった雰囲気少女「結城 友奈」と、もう一人は黒のロングヘアで大和撫子といった雰囲気少女「東郷美森」の2人であり、かつて「神樹」と呼ばれる神から「勇者」という力を授かり、ウルトラマン達と共に世界を守っていた少女達である。

『いつまでも春にいい、良にいい頼ってばかりじゃいけませんからね。 それに友奈さん

達にはもう勇者としての力もありませんし……」

「でも、あんまり無理はしないでねヒナタちゃん？ あなたに何かあると春木さん達も悲しむから……」

東郷の言葉を受け、「はい!!」と元気よく頷いて返事をするグリージョ。

その時のことである。

突如、空に巨大なワームホールのようなものが開き、そこから4本の巨大な角、両腕に刃のようなものが装着された巨人「暗黒超邪 ウルトラダークキラ」と、黒いボディに赤いラインが走り、銀色のプロテクターが装着された巨人……「ダークディアス」、そしてその2体と戦う赤と青の身体で頭に2本のブーメランが装着された巨人「ウルトラマンゼロ」が現れる。

『ぐっ!!』

『えっ!? なになになに?!?』

「見たこともないウルトラマンが……3人!?!」

ゼロは素早くグリージョの元へ駆け寄るとゼロはグリージョの腕を掴んで「俺と一緒に来い!!」と言い放つ。

『でも私来年には中学生になるとはいえまだ小学生ですし……お兄さんロリコンですか?』

『違うわ!!』

「ヒナタちゃんをナンパしちゃダメ!! 良くん達が怒るよ!!」

『だからナンパじゃ・・・んっ? お前等、結城 友奈と東郷 美森か?』

ゼロが友奈と東郷の姿を見ると突然彼女等の名前を口にし、2人は揃って「えっ?」と首を傾げる。

『ディア!!』

だが、そこへすかさずダークディアスがゼロに殴りかかり、ゼロはダークディアスの拳を掴んで腹部に蹴りを入れて引き離す。

『グウウ!!?』

『ダークディアス、お前は勇者共から力を奪え。そしてウルトラマンゼロ、貴様はそいつをこちらに渡せ』

ダークディアスはダークキラールの言葉に頷き、右手を友奈達にかざし、それを見たゼロは彼女等に「逃げる!!」と叫ぶ。

「えっ?」

「東郷さん危ない!!」

だが、咄嗟に友奈は東郷を突き飛ばして彼女を庇うと彼女の身体から光が溢れ出し、それがダークディアスに吸収されていく。

「友奈ちゃん!？」

「きやああ!!? な、なに．．．．? 力が、抜けていくように．．．．」

『僅かに残っていた神樹の力、確かに貰ったぞ。 貴様からも貰おうか東郷 美

森．．．．!!』

一方、ダークキラールはゼロとグリーンジョに向かって両手から黒い光線を放ち、咄嗟にゼロはグリーンジョを庇うのだが．．．．直撃を受けると2人の背後にワームホールが作られ、2人はその中に吸収されてしまう。

『ぐっ、せめて．．．．キングのじいさんから預かったこいつを!!』

だが、吸収される直前にゼロは左腕に装着された「ウルティメイトブレスレット」から2つの光を取り出し、それを友奈と東郷に投げつけ、ゼロとグリーンジョの2人は異空間．．．．「ダークキラールゾーン」へと取り込まれてしまうのだった。

「ヒナタちゃん!!」

だが、その代わりにゼロの投げた光が東郷と友奈の身体に直撃すると、眩い光が起り．．．．その光はダークデイアスの手を弾き、光が収まるとそこにはヤマザクラをモチーフとしたピンクの衣装を纏った友奈と、アサガオをモチーフとした青い衣装を纏った東郷が立っていた。

「これって．．．．」

「勇者の力……？　なんで……？」

『勇者の力が復活しただと？　だが好都合だ、残りカスでも十分だったが……根こそぎ貰えるとは!!』

ダークディアスはさらに勇者の力を奪おうと彼女等に襲いかかろうとするのだが、それをダークキラーが肩を掴んで引き止める。

『目的は果たせた。　奴等は貴様が今奪った奴のダークネスの力で十分だろう。　後のことはそいつ等に任せれば良い』

『それもそうだな。　お前等の相手は……こいつだ』

ダークディアスはそう言うのと右手をかざし、そこから黒い煙のようなものが友奈達目の前に放たれると……その煙の中から友奈と同じ格好をしているが色は黒く、それ以外は殆ど友奈と瓜二つの少女が現れた。

「く、黒い私!？」

「ゆ、友奈ちゃんかもう1人!!？」

「あ、あなた一体……？」

友奈と東郷は驚きの表情を浮かべ、友奈は一体その自分そっくりの少女が何者なのかと問いかける。

「そうだねえ。　すごい安直だけど一応黒友奈……『黒奈』とでも名乗ってお

「こっつかかな〜?」

おちやらけたように「黒奈」と名乗る少女が友奈の質問に答えると、彼女は目つきを鋭くし、友奈と東郷に向かって駈け出し、いきなり襲いかかって来たのだ。

『後は任せるぞ、私の生み出した黒奈……』

ダークディアスはそれだけを言い残すとダークキラーと共に時空の壁を開いてその中へと消え去り、黒奈は友奈に向かって拳を振るい、それを彼女はなんとか躲す。

「っー」

しかし、即座に黒奈は友奈に詰め寄ってアッパーカットを繰り出し、それを友奈は両腕を交差してガードする。

「ぐっ!?!」

そこへ、東郷が黒奈の足下に手にした2丁の短銃から弾丸を放ち、威嚇射撃を行い、黒奈は思わず足を止めるが……今度は攻撃のターゲットを東郷に変更し、一気に彼女の元まで詰め寄ると彼女の首を掴みあげて押し倒す。

「うあっ……!!?」

「な〜んか煮え切らない戦いをするなあ。もしかしてまだ全盛期ほどの力が発揮されてない感じ? まあ、闇の力で私自身強化されてるのもあるんだけど……」

「うっ……やあ!!」

東郷はなんとか黒奈の腹部に足を押しつけ、蹴り上げてなんとか彼女を押し退かし、そんな東郷の元に友奈が駆け寄る。

「東郷さん!! 大丈夫?」

「ええ、大丈夫よ。友奈ちゃん……でも、このままじゃ負けてしまう。

友奈ちゃんと同じ姿をしている人と戦うのは気が引けるけど……ここは、本気で戦わないとダメみたいね……!」

流石に黒奈が手加減できるほどの相手ではないと考えた東郷は、殺しはしなないがせめて戦闘続行不能になるくらいには追い込まないとダメだと判断し、それを彼女は友奈に伝え、それを受けた友奈も頷く。

「やあああ!!」

最初に友奈が黒奈に向かって飛び出し、跳び蹴りを彼女に向かって放つが黒奈は友奈の足を掴んで空中へと放り投げる。

続けて東郷は黒奈の周りを走り回りながら2丁の短銃で銃弾を撃ち込んで行くのだが、黒奈はそれらを全て弾き飛ばし、ジャンプして急降下キックを東郷に向かって放つ。

「勇者……キック!!」

エネルギーを込めたキックを東郷に向かって放つのだが……。

「勇者あ!! キーック!!!」

同時に友奈も同じようにエネルギーを込めた「勇者キック」を放ち、2人はぶつかり合い、互いに弾けるように吹き飛ばされる。

「くっ、少しはやるじゃん」

「続けて行くよ!! 勇者あ、パンチ!!!」

すかさず友奈はエネルギーを込めた拳を突き出して放つ「勇者パンチ」を繰り出し、それに対して黒奈も右拳にエネルギーを込めた拳を突き出し、「勇者パンチ」を炸裂させる。

「勇者………パンチ!!」

友奈、黒奈、両者の拳が激しくぶつかり合うのだが………パワーは黒奈の方が上である為か、友奈の拳はあっさりと弾かれ、殴り飛ばされて彼女はその場に倒れ込んでしまう。

「きゃああ!!」

「ぐっ、この友奈ちゃんの偽者………強い………!!」

「もつとさあ、殺す気で来てよ。 じゃないと私は倒せないよ? ホントつままないなあ。 これなら簡単に君たちの力を奪えるよ………」

黒奈はそう言いながらダークディアスと同じように、友奈からさらに勇者の力を奪う為に右手をかざす。

*

M78星雲、光の国・・・宇宙警備隊本部にて。

そこに2本角の赤い巨人、「南 春木（みなみ はるき）」という少年が変身した「ウルトラマンロツソ フレイム」と1本角の青い巨人、「南 良（みなみ りょう）」という少年が変身した「ウルトラマンブル アクア」が召喚され、ロツソとブルは互いに顔を見合わせると彼等は互いに拳をぶつけ合わせる。

『おー、なんか綺麗な場所だなあ。 今度父さんや母さん、ヒナタや勇者部のみんな連れてピクニックに来ようぜ良？』

『確かに。 兄貴にして良い提案だな。 みんなきつとさぞ驚くだろう・・・』

『（ハハ）どこだあ!!?』

ロツソとブルはいつの間にか全く知らない場所に来ていることに気付き、さらには自分達がいっつの間にか変身していることに気付き、なんでこんなことになっているのかと2人は困惑する。

そんな彼等の元に……赤いマント、「ブラザーズマント」を身につけた6人のウルトラマンが現れる。

宇宙警備隊長「ゾフィー」

怪獣退治の専門家「ウルトラマン」

真紅のファイター「ウルトラセブン」

帰ってきたウルトラマンこと「ウルトラマンジャック」

光線技の名手「ウルトラマンエース」

そしてウルトラマンNO. 6「ウルトラマンタロウ」

「ウルトラ6兄弟」と呼ばれるかつて地球を守り続けて来た戦士達だった。

『ようこそ光の国へ、ウルトラマンロツソ、ウルトラマンブル。突然の呼び出し申し訳ない。ここは光の国、ウルトラマンの故郷。そして我々は『宇宙警備隊』だ』

6兄弟の代表としてタロウがロツソとブルにここがどこなのかを説明し、それを受けてロツソとブルの2人は「宇宙警備隊？」と首を傾げる。

『つてか、この人達半分くらいどこかで見たことあるな……。どこかで会いま

した?』

『はっ、兄貴!! この角の人火のクリスタルの人じゃないのか? 他にも刃や光のクリスタルの人がいるぞ!!』

ブルの言葉を聞いてロツソは「ああ、なるほど!!」と納得したところでタロウは早速本題に入る。

『単刀直入に言おう。君たちの妹、南 ヒナタくんことウルトラウーマングリージョが攫われた』

『『なんだって!?!』』

それを受け、ロツソとブルは驚きの声をあげる。

『攫ったのはウルトラダークキラー、そしてダークディアスと呼ばれる闇の魔人達だ』

なんでもタロウが言うにはダークキラーはかつて一度は自分達が倒し、ダークディアスもまたダークディアスのオリジナルとも言える「ウルトラマンディアス」と呼ばれるウルトラマンによって倒された。

しかしこの2体はなぜか蘇り、手を組んでグリージョを狙っていることをタロウ達は突き止め、そこでタロウはゼロを護衛に向かわせたのだが、今現在交信が途絶えている状態なのだという。

『さらにそれだけではない。ダークディアスは君たちの仲間から僅かに残った勇者の

力を奪い、その力を戦力にしようとしているらしい。だが、こちらにも私が信頼できる『友』に頼み、向かって貰った。一部のメンバーと合流ができたという連絡があったのでそちらは問題ないだろうが………』

『なら、俺達は急いでヒナタを探そう!!』

『そうだな!! 出来れば友奈さん達の合流も視野に入れて!!』

タロウの説明を聞き、ロツソとブルはグリージョを探すために急いで光の国をタロウの制止も聞かずにいきなり飛び立ってしまったのだ。

『お、おい! まだ話の途中………。はあ、これも若さか………』

*

場所は戻り、綾香市。

「死にはしないから安心して良いよ。ただちよこつとだけ苦しいけど……!!」
 黒奈は右手を友奈に向かってかざし、まずは彼女から今度こそ勇者の力を完全に奪おうとするのだが……!!。

「でえええやあああああ!!!」

突如、頭上から何者かの声が聞こえ、見上げるとそこにはオレンジ衣装を身に纏い、腕に機械的なものを武装した一人の少女が拳を黒奈に向かって振るい、彼女は慌てて咄嗟に後方に下がってなんとか避ける。

そのまま彼女の拳は地面にめり込むのだが、少女は素早く黒奈に詰め寄り、彼女の腹部を思いっきり殴りつける。

無論、コピーとは言え勇者の力を使っている為、「精霊バリア」と呼ばれるバリアに当たる能力として彼女の腹部には闇の渦のようなものが発生し、それが直撃を防いでくれたのだが……。それでも彼女は衝撃で大きく吹き飛ばされてしまう。

「ひゃあああ!!!?」

地面を転がり、倒れ込む黒奈。

そして少女……。「立花 響」は拳を構え、叫ぶ。

「だけど私は、ここにいるツ!!」

挿入歌「ALL LOVES BLAZING」

響は「歌」を口ずさみながら黒奈に向かって突っ込むように向かって行き、拳を振るい、それに対抗して黒奈も拳を放ち、2人の拳が激しく激突し合う。

しかし直後に響は黒奈の横腹目がけて蹴りを放ち、黒奈は後方に飛んで回避する。

「君は………立花 響!? ガングニールの奏者がなんでここに!?!」

黒奈は響の登場に驚きつつも逆に彼女の力も奪うチャンスだと思い、黒奈は臆せずに向かって跳び蹴りを繰り出し、響は両腕を交差して攻撃を防ぐ。

「ダリヤリヤリヤ!!」

だが、黒奈は何度も蹴りを繰り出し、響はそれらをなんとかして受け流す。

「あの人は………一体………。っていうかなんで歌いながら戦ってるの!?!」

「それよりも、東郷さん………私達も!!」

響が歌いながら戦っていることに疑問に思いつつも友奈は自分達も一緒に戦うべきだと言い、東郷は頷く。

「援護は任せて!! 友奈ちゃんはその人と一緒に!!」

「分かったよ!!」

友奈は響と戦っている黒奈に向かって駆け出し、殴りかかるが黒奈は上空に飛んで回避。
しかし、上空に飛んだ瞬間響は足部のユニットを展開し、それによって一気に加速す

るように黒奈に向かってジャンプし、ドロップキックを叩きこむ。

「ぐっ!?!」

それを受け、黒奈は地面に転がり、どうにか反撃しようとするが東郷から放たれた弾丸が襲いかかり、黒奈はそれらを拳でなんとか弾く。

だが、それによつて出来た隙を突かれ、いつの間にか友奈と響に詰め寄られており、彼女等2人が同時に放った拳を受け、黒奈は大きく吹き飛ばす。

「ぎゃああああ!!!」

「よし!! それじゃ、今の内に! ここは一旦退散で!!」

「えっ!?! 今の内って……」

響は友奈の返事を待たず腕を引っ張つて東郷の元まで行くと響は何か小さな装置のようなものを取り出し、その中央にあるボタンを押すと目の前に巨大なワームホールが開き、響は友奈と東郷の返事を待たずに彼女等の腕を引っ張りその中へと消えて行くのだった。

3人はその中に入った直後に、穴は消え、それを見た黒奈は「チッ」と舌打ちする。「流石に1人で3人相手はキツかったかな」

*

光の国、そこのとある場所に次元を越えて響、友奈、東郷が現れる。

「ここは、一体……」

「わあ〜！ 綺麗な場所だね、東郷さん!!」

「この星の光は地球人には有害なんだけど、このバリアの中でなら平気そうなんだ。

少し狭いけど、我慢してね」

響は友奈と東郷にそう説明すると、2人は戸惑いながらも「分かりました」と頷き、それから東郷は響に一体なにが起きているのか状況の説明を求め。

「それはもう少し、人が集まってからウルトラマンタロウさんから直接話すと思うから……もうちょっとだけ待ってて」

「ウルトラマンタロウ？」

響の言う聞き慣れないウルトラマンの名前に首を傾げ、疑問に思う友奈と東郷。

「ここは光の国、ウルトラマン達の星なんだよ」

「ふえ!! ウルトラマン達の……」

「星!! 私達、随分凄いとところに来ちゃったみたいね……」

いきなり響に連れて来られた場所がウルトラマン達の星等と聞けば当然友奈も東郷も驚きを隠せず、動揺していた。

「そう言えば、自己紹介がまだだったね。私は立花 響、17歳!! 誕生日は9月の13日で血液型はO型!! 身長はこの間の測定では157センチ!! 体重はもう少し仲良くなったら教えてあげるね!! 趣味は人助けで好きな食べ物はご飯&ご飯だよ!!」

「あつ、私は讃州中学校、勇者部2年3組、結城 友奈!! 誕生日は3月21日で血液型はO型!! 私はこの間の測定では154cm! 趣味はお母さんに教わった押し花で、好きな食べ物はどうどん&うどんです!! さつきは助けてくれてありがとうございます!」

響と同じように自己紹介をする友奈に東郷は「なんだか似てる2人だなあ」と思い、思わず笑みを浮かべてしまい、響は「うどんも良いよね」なんて言っている。

「私も友奈ちゃんと同じクラスで勇者部の東郷 美森です。できれば名字で呼んでください。先ほどはありがとうございました」

ペコリと頭を下げてお礼を言う東郷に、響は「無事で良かった!」と笑顔で言うのだった。

*

一方、ダークキララーの作り出した空間、「ダークキララーゾーン」では……。

『なんですかここ？ 暗いし、それになんだか息苦しい……』

『どうやら、ダークキララーの作り出したダークキララーゾーンに取り込まれたらしい』

ゼロとグリーンジョはダークキララーゾーンと呼ばれる場所に閉じ込められており、さらにはゼロが言うにはこの場所に漂う闇のエネルギーが2人の光のエネルギーを少しずつではあるが吸い取っているらしい。

『それってマジヤバってことですか!?!』

『分かりやすく言えばな』

グリーンジョはこのままでは自分達は死んでしまうのではないかと不安になるが……。ゼロはポンつとグリーンジョの肩に手を置いて「心配すんな」と彼女を励ます。

『きつと助けは来る。仲間を信じるのも、ウルトラマンの大事な資質だぜ?』

『ウルトラマンの……大事な資質?』

グリージョの言葉に対し、ゼロは「ああ」と頷く。

『そういや、まだ名前を言っただけじゃなかったな。俺はゼロ、ウルトラマンゼロだ』

『あつ、私はグリージョ！ 南 ヒナタ、ウルトラウーマングリージョです！』

そう言うところグリージョは自分の拳を出し、ゼロの拳も引張って前に出させ、ロツソとブルが何時もやっているように拳を何回か軽くぶつけ合わせた後、ハイタッチを行う。

『なんかよく分かんねえが、良いなこれ』

*

惑星O—50。

その場所では上半身が赤がメイン、下半身が黒がメインで胸に円形状のカラータイマーが特徴的な大剣を持つ巨人……「ウルトラマンオーブ オーブオリジン」が立っていた。

『命の洗濯か……。 やっぱりここが……。』

オーブはそこまで言いかけると不意に黙り込み、しばらく何か考え込んだ様子を見せる。

『……そろそろ、久しぶりに穂むらにでも帰ろうか。俺に取っては、あそこが1番落ち着く場所だからな……』

その時、突如空にワームホールが開いてそこからジードダークネスとエックスダークネスが出現し、2体は光弾を放ってオーブに攻撃して来たのだ。

咄嗟にオーブは大剣「オーブカリバー」を振るって光弾を防ぎ、オーブカリバーを構えて戦闘態勢に入る。

『何者だ!』

オーブの言葉に構わず2体のダークネスは一斉にオーブへと襲いかかり、彼等の姿を見たオーブは驚きの声をあげる。

『エックスさん!?! それにジード!?! いや、違う!』

『シユア!!』

地上に降り立つと真っ先にジードダークネスがオーブに戦いを挑み、膝蹴りを繰り出すのだがオーブはオーブカリバーで受け流し、オーブカリバーを振るってジードダークネスを斬りつけようとするのだがジードダークネスはバク宙で回避。

続けてエックスダークネスがオーブへと攻撃を仕掛け、オーブは咄嗟にオーブカリ

バーを振りかざすがエックススダークネスは両手でそれを受け止め、オーブの腹部に蹴りを叩き込む。

『グウ、シエア!!』

オーブは一度距離を取るとオーブカリバーを横一閃に振るって光の刃を飛ばし、それに対してジードダークネスは前腕の鱗状の部位から放つ切断光線「レッキングダークネスリッパ」を放って相殺。

続けざまにエックススダークネスが闇のエネルギーを矢じり型にして放つ「Xダークネススラッシュ」を発射し、オーブに直撃させる。

『ぐう!?!』

『ウルトラマンオーブ! サンダーミラクル!』

そこでオーブは姿を変え、「ウルトラマンダイナ ミラクルタイプ」と「ウルトラマンベリアル」という2人のウルトラマンの力を融合させた姿「サンダーミラクル」になると自分に飛びかかってきたジードダークネスとエックススダークネスに向かって両手をかざし、サイコネシスで空中で動きを封じる。

『フン!! デヤア!!』

そのままオーブは空中からエックススダークネスとジードダークネスを地面に叩き落とし、倒れ込んだジードダークネスとエックススダークネスに向かって駆け出すのだ

が……突然、オーブの顔が爆発し、大したダメージこそ無かったもののオーブはその場で足を止めてしまう。

「ほらほら、今だよお2人さん」

『アレは……時雨さん!? いや、彼女も違う!』

岩山のところかいつの間にか深海時雨が主砲を構えてそこにおり、それに領いたエックススタークネスは深海時雨の力を宿した「深海時雨アーマー」を装着。

両手に主砲を持ち、エネルギーをチャージして放つ「バーストスタークネスデストロイヤー」をエックススタークネスは放つ。

『ハアア、シエア!!』

しかし、それをオーブは再びサイコキネシスを使って光線を防ぎ、そのまま光線をエックススタークネスに跳ね返す。

だが、それをエックススタークネスは「宇宙大怪獣 ベムスター」を模した黒い鎧、「ダークネスベムスターアーマー」を今度は装着すると左腕に装着された盾で攻撃を吸収し、吸収した光線をそのままオーブに跳ね返すようにして放つ「ベムスターダークネススパウト」を繰り出す。

『なに!?!』

『又ウウ、デヤア!!』

『ハアア、シユア!!』

同時にジードダークネスも全身を発光させながら赤黒い稲妻状の光子エネルギーを両手に集中させ、腕を十字に組んで放つ必殺光線「レッキングダークネスバースト」を発射。

これにはオーブも防御が間に合わず、2人の放った光線の爆発によつて姿が消えるのだが……。

『メビュームエスペシャリー!』

爆発の炎の中から今度は「ウルトラマンメビウス」と「ウルトラマンギンガ」という2人のウルトラマンの力を融合させた姿、「メビュームエスペシャリー」となつてオーブは勢いよく飛び出し、そのままジードダークネスに殴りかかるがジードダークネスは拳を受け止めて逆にオーブを殴りつける。

『グッ……! 強さは本人達には匹敵……いや、闇のエネルギーでさらに強化されてやがんのか!』

『ダアア!!』

そのままジードダークネスがオーブの顔を掴みあげるのだが、なんとかオーブは振り払い、回し蹴りをジードダークネスに喰らわせる。

そこへエックスダークネスがダークネスベムスターアーマーの盾をブーメランのよ

うにして投げつけ、それをオーブは右腕のクリスタルから出現させた剣「メビュースマッシュブレード」を出現させて弾き飛ばす。

『メビュースマッシュブレード!!』

オーブはブレードを構え、エックスダークネスとジードダークネスに立ち向かう。

『シエア!!』

『ジヨワツ!!』

だが、その時オーブの背後から突然2つの光弾が飛んで来てそれらがオーブに直撃し、オーブは膝を突いてしまう。

『グウ!?!』

慌ててオーブが後ろを振り返るとそこには銀色の身体に黒いライン、胸部に赤いプロテクターに青い目をした巨人「イーヴィルティガ」と、赤いラインに「ウルトラマンダイナ」というウルトラマンにそっくりな巨人「人造ウルトラマン テラノイド」が立っていたのだ。

『こいつ等は……イーヴィルティガに、テラノイド!』

イーヴィルティガとテラノイドの2体はオーブに向かって走り出し、その2体に対してオーブはブレードを振るって攻撃するのだが2体はそれを躲し、そこへジードダークネスとエックスダークネスがオーブの両腕を掴んで動きを封じる。

『ぐっ!?!』

『シヤア!!』

『シヨワツ!!』

イーヴィルティガはそのままストレートキックをオーブの腹部に叩き込み、続けてテラノイドがオーブの腹部に拳を叩き込む。

『グツ、ウウ……!!?』

最後にエックスダークネスとジードダークネスが同時にオーブに膝蹴りを繰り出してオーブを突き放すと2体のダークネスはオーブに向かって右手をかざし、その光のエネルギーを吸収し始める。

『うぐっ!?! ぐあああああ!!?!? 俺の光のエネルギーを……!!!』

カラータイマーが激しく点滅を始め、倒れ込んでどんどん弱っていくオーブ。

このままではと思われたその時……!!

『ウルトラライブ! ウルトラマンビクトリー!』

『ウルトラライブ! ウルトラマンティガ!』

黒いボディにV字の頭部にV字のクリスタルが身体についた戦士、「諸星 零無」という青年が変身した「ウルトラマンビクトリー」と赤と紫の超古代の巨人「ウルトラマンティガ マルチタイプ」がオーブとダークネス達の間を割って入るようにその場に現

れ、ビクトリーとティガはファイティングポーズを取り、ダークネス達と対峙する。

『あなた達は………ビクトリーさん!! それに、ティガさんまで!!』

その光景を見て深海時雨は「ちよつと、これはヤバいかな………」と目を見開いて驚いていると………。

「デエース!!!」

「碧刃イガリマ」という緑の衣装を身に纏った少女………「暁 切歌」が深海時雨の頭上からいきなり現れ、彼女は鎌形の武器「アームドギア」を振るって攻撃を繰り返して来たのだ。

「わわっ!?!」

咄嗟にバックステップの要領で躲す深海時雨。

「むう、躲されたデスカ………」

「チツ、暁 切歌まで現れたか………。でも丁度いいや、相方がいないのが残念だけど、君のイガリマの力も頂くよ」

深海時雨は2門の主砲を構え、戦闘態勢に入り、彼女は切歌に向かって砲弾を発射………。

切歌はそれを「歌」を口ずさみながらアームドギアで切り裂き、深海時雨に突撃。

挿入歌「未完成愛 M a p p u t a t s u !」

『待たせたなオーブ！ かつこ良く、ウルトラマンビクトリーここに参上したぜ？』

一方、ビクトリーが軽い口調でオーブにそう言い放つとビクトリーは向かって来るダークネス達に回し蹴りの要領で足のVクリスタルから放つV字型の光弾「ビクトリウムスラッシュ」を炸裂。

『ビクトリウムスラッシュ!!』

『『『グウウウ!!』』』

『ウルトランス！ エレキング！ テイル！』

さらにビクトリーは右腕を「宇宙怪獣 エレキング」の尻尾に変化させた「エレキングテイル」を発動させるとエレキングテイルを伸ばしてダークネス達を纏めて拘束。

しかし、その際にジードダークネスとテラノイドだけがビクトリーの技を躲し、ビクトリーに攻撃を仕掛ける。

『シー、ハア!!』

だが、2体の攻撃をティガは許さず自身の額の位置で両腕を交差させ、振り下ろして紫色の姿……。「スカイタイプ」にティガはタイプチェンジ。

『ハアア、チャッ!』

ティガは右手から相手の頭上に冷凍光線を放つて爆発させ、落ちてくる超低温の冷気で凍らせる「ティガフリーザー」を繰り出し、ジードダークネスとテラノイドを凍らせ

る。

そのままビクトリーは拘束しているイーヴィルティガとエックスダークネスに電撃を送り込み、ダメージを与える。

『ウアアアアア!!!?』

『お兄ちゃん!』

するとそこへティガが倒れ込んでいるオーブの元に駆け寄り、彼に肩を貸して起き上がらせる。

『その声……まさか、お前……穂乃果か!?』

『そうだよ!』

そのティガの正体は、ウルトラマンオーブ……高坂 紅葉の義理の妹であり、スクールアイドルのμ'sのリーダーでもあった少女、「高坂 穂乃果」だったのだ。

『なんでお前が、ティガさんに……』

『その話は後だ!!』

ビクトリーはそう言いながらイーヴィルティガの右拳を突き出して放つ光弾「イーヴィルビーム」を右腕を剣に変化させた「メカザムブレード」で弾き、跳び蹴りを繰り返して来た跳び蹴りを繰り返して来たエックスダークネスをすれ違いざまに斬りつけ、頭部から放つ光線「ビクトリウムバーン」でエックスダークネスを吹き飛ばす。

『ビクトリウムバーン!!』

『ウグオ!!』

同時に、切歌は主砲を逆手に持つて殴りかかって来た深海時雨の攻撃を受け流し、後ろに回り込むと同時にアームドギアの柄頭部分で殴りつける。

「くっ! シエルシヤガナとセツトじゃないイガリマなんて!!」

「一人だからってあたしをあんまり舐めないで欲しいデスね」

深海時雨は切歌の方へと振り返ると同時に主砲を構え直して砲弾を発射し、切歌の足下を爆発させて煙幕を作る。

「小癩な!! デース!!」

切歌はアームドギアを振るつて煙を払うのだが、深海時雨の姿はどこにもなく、辺りを見回そうとすると後ろから深海時雨の跳び蹴りを背中に受け、蹴り飛ばされてしま

う。

「うぐっ!?!」

そのまま深海時雨は主砲を逆手に持つて切歌に殴りかかるが……、切歌はアームドギアの刃を3枚に分裂させ、ブーメランのように飛ばして左右から挟撃する「切・呪りeTTお」を放つ。

深海時雨はそれらを主砲で弾き飛ばし、主砲で殴りかかり、それを切歌はアームドギ

アで防ぐ。

「喰らえ!!」

「ぐっ!!」

『お前等寒いだろ! 暖めてやるよ!!』

『ウルトランス! レイキュバス! シザース!』

またビクトリーは今度は右腕をハサミにした「レイキュバスシザース」から凍り付いたテラノイド、エックスダークネス、そしてジードダークネスとイービルティガに向かつて火炎弾を連続で発射。

4体の巨人が怯んだ隙にビクトリーはオーブとティガに「一旦退くぞ!!」と言うと3人は頷き、深海時雨と戦う切歌はアームドギアを振るい、深海時雨を後退させてビクトリーの肩に飛び乗る。

ビクトリーは肩に乗った切歌に球体状のバリアに包むと3人のウルトラマンは宇宙へと向かって飛び立つのだった。

「クソッ!! 逃がしたか……」

水の惑星、クリエイター。

そこでは半漁人のような姿をした「海底原人 ラゴン」がアザラシに似た顔をして巨大な翼を持つ怪獣、「冷凍怪獣 ペギラ」に襲われており、ペギラは口からマイナス130度にも達する反重力光線を放ってラゴンの周囲を凍り付け、氷の山を作り上げてラゴンの逃げ場を無くす。

「グルアアアア……!!」

「クエエ……!!」

ラゴンはペギラに怯えた様子を見せるが、ペギラは容赦なくラゴンに向かって反重力光線を放とうとする。

『そこまでだ!!』

だが、そこへペギラに向かって青いクリスタル「ギャラクシウム」を手足に装着した戦士、「ウルトラマンリブット」が駆けつけ、リブットは急降下キック、「リブットキックG」を繰り出して蹴り飛ばし、地上に降り立つ。

「グルアアア!!!?」

『弱い者いじめとは、感心しないな。ギヤラクシーレスキューフォース、ウルトラマンリブット!! 出動!!』

リブットはそう言い放つとペギラに向かって走り出し、ペギラは反重力光線を口から発射してリブットを迎え撃とうとする。

『ブロッカーエフェクト!!』

しかし、リブットは左腕に装着されている装備「リブットブロッカー」を巨大化させて盾にした「ブロッカーエフェクト」で防ぎながらそのまま真っ直ぐペギラに向かって行き、目の前までやってくるとペギラの頭上を飛び越えて後ろ回し蹴りを喰らわせる。

「ガアアア!!!」

攻撃を受けたペギラは振り返りざまにリブットに殴りかかるが、ブロッカーエフェクトを解除したリブットはペギラの腕を掴みあげて押し返し、腹部に連続で拳を叩き込んだ後、さらに蹴りを喰らわせてペギラを怯ませる。

『シエア!!』

「ギシヤアアア!!!」

負けじとペギラは突進をリブットに繰り返すのだが、そのペギラの突進を利用して巴投げを繰り返す、ペギラは大きく吹き飛ばされる。

「グルアアア!!?」

『ハッ!!』

素早く起き上がったリブットは即座にペギラに振り返り、演武のような動きをして腕を?字に組んで放つ「ギヤラクシウムブラスター」をペギラに向かって発射。

『ギヤラクシウム………ブラスター!!!』

「ギアアアア!!!」

直撃を受けたペギラは火花を散らし、倒れて爆発するのだった。

「クエエエ〜!」

そしてラゴンは自分を助けてくれたことにお礼を言うような動作を見せ、リブットはラゴンの元へ行き、膝を突いて「礼はいらないよ」と言うのだった。

『か弱き生命を守り、救助するのがギヤラクシーレスキューフォースの使命だからね』

するとその時、空に1つの文字が突然浮かび上がり、それに気付いたリブットはそれがタロウからの「ウルトラサイン」であることに気付く。

『アレは、ウルトラマンタロウからの出動要請………?』

*

その頃、宇宙を飛行しながらグリージョの行方を捜していたロツソとブルは……。
 『それで？ ヒナタをどうやって探す兄貴？』

『んなもん気合いだ気合い!! 気合いでヒナタを意地でも見つけ出す!!』

『はあ、脳筋兄貴め……』

ロツソの言葉にブルが呆れているとその時、突如どこからか2つの光弾が飛んで来てそれらが2人に直撃し、2人は近くの惑星……。「岩の惑星 ペノル」へと墜落するのだった。

『『うわああああ!!!?』』

2人は地上へと叩き落とされ、ロツソは「何なんだよ!!」と怒りながらブルに肩を貸して立ち上がる。

『んっ? 兄貴……誰かいるぞ!』

『時空を超えて全ての平行世界を恐怖で包む……。我が名は超時空魔人 エタルガー……!』

そこへ現れたのは金色の魔人、「超時空魔人 エタルガー」がロツソとブルの2人の前に現れ、ロツソとブルはエタルガーから向けられる殺気を感じ、身構える。

『なんだよお前? 俺達になんか用か!』

『生憎、こっちは暇ではないんだが……』

『貴様等の都合など知るか。貴様等に恐怖を刻むために、俺は復活したあ!!』

エタルガーがロツソとブルに向かって攻撃を仕掛け、それにロツソとブルも応戦。

ロツソはエタルガーの放つ拳をしゃがみ込んで躲し、腹部に炎を纏ったパンチを叩きこむ。

『シエア!!』

さらにブルが跳び蹴りをエタルガーに叩き込み、続けて2人はエタルガーの両腕を掴んで開いている方の腕で同時にエタルガーの胸部を殴りつける。

『又ウ……!! ハア!!』

しかし、エタルガーにあまりダメージは与えられず、エタルガーはロツソとブルを振り払って両手から光線を2人に向けて放って直撃させ、怯んだブルの首を掴みあげる。

『グウ!!?』

『ウルトラマンブル! シュテンドウジ!』

ブルは胸部が黒くなりX字の赤い鎧のようなものが装着され、青かった頭部と足と手の部分は桃色に変化し、その後腕に赤いガントレットのようなものが装着された「ウルトラマンブル シュテンドウジ」に姿を変え、強烈なパンチを自分の首を掴んでいるエタルガーの腕に喰らわせ、エタルガーの腕を離れさせる。

『ゲホゲホッ!』

『ウルトラマンロツソ! ダイテング!』

そこへ赤みかった足の部分と頭部、胸部は白に、腕は黒になり、右肩にはカラスの嘴を模した黒いシオルダーが現れ、左には黒い翼のようなシオルダーが装着された姿になった「ウルトラマンロツソ ダイテング」が光の刀「生大刀」を出現させてエタルガーの背中を斬りつける。

しかし、エタルガーには全く攻撃が通じず、エタルガーの後ろ回し蹴りを逆にロツソは喰らってしてしまう。

『うああ!!?』

ブルは素早くロツソの元に行くと2人はまた姿を変え、ロツソは黄金色の土の力を宿した姿、「ロツソ グランド」に、ブルは紫色の風の力を宿した「ブル ウインド」に姿を変える。

『ウインド!!』

『グランド!!』

『ハイブリットシュートオ!!!』

風と土のエネルギーを合わせて2人同時に放つエネルギー弾「ウインドグランドハイブリットシュート」をエタルガーに向かって放ち、エタルガーに直撃させるのだ

が………。

エタルガーはそれらの攻撃を喰らいながらも強引にロツソとブルに向かって突進し、両手で爪ですれ違いざまにロツソとブルを斬りつける。

『グウウウ、ハアアアアア!!』

『ぐあああああ!!』

エタルガーの攻撃を喰らい、倒れ込むロツソとブル。

『俺達の必殺技が………効かないなんて………!!』

『滅茶苦茶堅い身体してやがんなクソ………!!』

エタルガーはロツソとブルにトドメを刺そうと巨大な赤い光弾を2人に向かって発射。

『ブロッカーエフェクト!!』

しかし、それをそこに駆けつけて現れたウルトラマンリブットがブロッカーエフェクトで攻撃を防ぎ、弾き飛ばして現れたのだ。

『っ!?! 誰だ!?!』

『あなたは………』

『私はギャラクシーレスキューフォース、ウルトラマンリブット!! 宇宙警備隊の要請で君たちの救助に来た!!』

リブットはそう言うところらに向かって来たエタルガーと戦闘を開始し、2人は取っ組み合いとなる。

『全く、タロウの忠告を無視するなんて……!!』

『だって……!!』

『まあ、君たちほどの年齢なら、仕方が無いのかも知れないが』

リブットはブロツカーエフェクトでエタルガーを殴りつけ、引き離すと腕先から放つ光の網でネットを作り相手を包み込む技「ストロングネット」を繰り返す、その中にエタルガーを閉じ込める。

『ぐっ！ 舐めた真似を!!』

『今だ!! 光の国に戻るぞ!!』

『は、はい!!』

リブットの言葉に頷いたロツソとブルはエタルガーがストロングネットを破るのに手間取っている間にリブットと同時に空へと飛び立ち、光の国へと戻るのだった。

*

一方、エックスとジードはというと……。

2人は時雨を連れてなんとかジードダークネスとエックスダークネス、深海時雨の追撃を振り払うことに成功し、また別の山奥まで来るとエックスは手の平に乗せていた時雨を降ろす。

「大丈夫か？ 時雨？」

「うん、僕は平気だけど……提督と、無爪くんはもうエネルギーが……！！」

既にエックスとジードのカラータイマーは点滅を始めており、2人の残りのエネルギーが少なくなっていることを掲示していた。

『でも、早くみんなに奴等の目的を伝えないと……！！』

「でもその身体じゃ……！！」

「そうはさせない」

すると突然、時雨の腕を鞭のようなものが巻き付き、彼女は引つ張られてどこかへと放り投げられてしまう。

「うわああああ!!!」

「時雨!!」

『助けには行かせぬぞ』

それを見てエックスが時雨を助けようとするのだが……それを遮るようにエックス達を追って黒い鎧の巨人……「暗黒の魔神　ダークルギエル」が現れ立ち塞がったのだ。

『こんな時に、新手か!?』

『そちらの艦娘とやらの始末はお前に任せるぞ、『フィーネ』？　私はこいつ等の時を止め、永遠の楽園へと導く』

ルギエルが時雨を吹き飛ばした人物……金色の鎧を纏った女性、「フィーネ」にそう語りかけるとフィーネは「ああ」と頷き、鞭を構える。

「くっ、あなたは……!」

「私の名はフィーネ。　終わりの名を持つ者よ……」

フィーネはそう言いながら倒れ込んでいる時雨に向かって容赦なく鞭を振るう。しかし……。

その鞭を一つの弾丸が弾き、赤い衣装を身に纏ったクロスボウのような武器を持った銀髪の少女が時雨の前に現れたのだ。

「よお、久しぶりじゃねーか。　フィーネ?」

「あら、ホントに久しぶりね……クリス?」

そこに現れたのは「雪音　クリス」という少女であり、彼女の姿を見た時雨は「クリ

スさん!!」と彼女の名を呼ぶ。

「来たのはあたしだけじゃねえぞ、時雨?」

「えっ?」

『ウルトラライブ! ウルトラマンギンガ!』

『ウルトラライブ! ウルトラマンダイナ!』

そこに、今度は青いクリスタルの巨人、「ウルトラマンギンガ」と、赤と青の身体に金色のプロテクターがある巨人、「ウルトラマンダイナ フラッシュタイプ」がルギエルの目の前に現れる。

『なに!?!』

2人の登場に最初こそ驚いたもののルギエルは即座にギンガに殴りかかる。

ギンガはそれを腕で受け止め、ダイナが膝蹴りをルギエルに喰らわせる。

『シヨワツ!!』

『ジュア!!』

続けてギンガもルギエルの腕を離すと同時に蹴りをルギエルの腹部に叩き込み、怯んだところをギンガはルギエルに掴みかかって押さえつける。

『まさか、お前まで蘇っていたなんてな! ルギエル!!』

ギンガはルギエルの腹部に拳を入れて引き離し、お互いに対峙するギンガとルギエ

ル。

『フン！ ダークスパークウォーズから続く我等の因縁、そう易々と断ち切れるものではないらしい！』

『ギンガ!!』

「コウマさん!?!」

『えっ？ あの人が……!!』

エックスがと夜空がギンガの登場に驚き、ギンガはルギエルと取っ組み合いを始める。

その間にダイナがエックスとジードの元に行き、彼等に手を差し伸べて2人を立ち上がらせる。

『なっちゃん!! 助けに来たよ!!』

『えっ、なっちゃんて……千歌ねえか!?! どうしたのそれ!?!』

『えへへ、カツコイイでしょ?』

そのダイナに変身しているのはジード……無爪にとつては姉のような存在であり、スクールアイドルのA q o u r s のリーダーでもある少女、「高海 千歌」が変身しているようで、千歌ことダイナはサムズアップしながらポーズを取る。

『これはウルトラマンギンガ……来元コウマさんに、与えられたギンガライトス

パークって言うので変身したんだよ！　ちなみに、穂乃果さんもティガってウルトラマンになって紅葉さんを助けに行ってる筈だよ！』

*

数時間前……。

ウルトラマンギンガこと、来元コウマと雪音　クリスはダークキラやダークディアスと戦う為、穂乃果と千歌を自分達の世界に呼び寄せた。

「奴等は恐らく、オーブとジードを狙う筈だ」

「お兄ちゃん、無爪くんをですか!?!」

「ああ。俺とウルトラマンビクトリーはそれぞれオーブとジードの救援に向かうが……そこで君たちにも力を貸して欲しい」

コウマは穂乃果と千歌の2人にそう説明するのだが……力を貸すと言われて

もなんの力もない自分達に何が出来るのか分からず、首を傾げる。

「確かに、なつちゃん達を私達は助けたいけど……でも、私達戦う力なんて……」

「敵は強大だ。きつと最後には俺達『ニューージェネレーション』が戦うことになるだろう。その時、オーブとジード、この2人と最も絆の強い君たちの力が必要になるかもしれない」

コウマは千歌と穂乃果の2人にそう言うのと短剣のようなアイテム「ギングスパーク」を取り出し、それを2人にかざすと2人の青いギングスパークのようなものが握られ、さらにコウマは2人にティガとダイナのソフビ人形のようなアイテム、「スパークドールズ」を渡す。

「そいつはギングライトスパークって言うてな。それを使えば、お前等はウルトラマンに変身できる」

「君たち2人はオーブとジードの2人とずつと一緒で、2人の戦いを一番近いところから見てきた。だから君たちならウルトラマンの力を正しく使える筈だ。でも、無理には言わない」

クリスとコウマは2人にギングライトスパークのことを説明すると、穂乃果と千歌は自分達がウルトラマンになれることに戸惑いを感じずにはいらなかったが……

オーブ、ジードがピンチで自分達の力が必要なのならば……そう考えると、彼女等が決断するまでに大した時間はいらなかった。

「分かりました!! 私達も、協力します!」

「お兄ちゃんはずっと私のことを守ってくれた。だから今度は、私も!!」

穂乃果と千歌の2人は顔を見合わせ、頷き、2人はギンガ、ビクトリー、切歌、クリスと共にオーブ、ジードを助けに向かうのだった。

*

『という訳なんだよ!』

『本当にすまない、ジード!! 千歌を巻き込んでしまつて!!』

ギンガはルギエルを押し返しながら、ジードに千歌を巻き込んだことを謝罪するが……、ジードは首を横に振る。

『いいえ、自分に力があればって言う気持ちは僕には分かりますから! それに、立場が千歌ねえと同じなら、僕も同じことをしてますし!』

「中々、お前も良い後輩を持ったんじゃないかねえかコウマ!」

クリスはギンガに対してそう言いながらアームドギアとしてロングボウを形成し、矢の形をしたミサイルで射貫く「ARTHEMIS SPIRAL」を放つが……
 フィーネは鞭を振るってミサイルを真つ二つに切り裂き、素早く詰め寄って跳び蹴りを繰り返す。

「ぐっ!?!」

クリスは両腕を交差して攻撃を防ぐが……それでも勢いよく吹き飛ばされてしまう。

「ぐあっ?!」

なんとかクリスは上手く地面に着地し、短銃に変形させたアームドギアをフィーネに構える。

「………テメエ、本物のフィーネじゃないだろう? 本物はもうちょい強ーぞ?」
 「ほお、私が本物ではないと見破ったか。だが! だからと言って私に勝てる道理などはない!!」

クリスは「歌」を口ずさみながら変形させた短銃のアームドギアで銃弾をフィーネに打ち込み、フィーネは左手に持った鞭を高速で横回転させることでクリスの銃弾を全て防ぐ。

挿入歌「Take this!」 All loaded」

そこからフィーネは右手に持つ鞭を剣のように鋭くさせ、銃弾を防ぎながらクリスに向かつて駆け出し、剣となった鞭をクリスに振りかざすが彼女はバックステップで回避。

またルギエルは胸の赤い発光体からは強力な光弾「ダークルギエルビート」を放ち、それと同時にギンガも全身を黄色く発光させて頭上に発生させた雷の渦を敵に向かつて投げつける電撃光線「ギンガサンダーボルト」を放って相殺。

『ギンガサンダーボルト!!』

『ムンツ!!』

ギンガは続けざまにルギエルに突っ込み、拳を胸部に叩き入れるが攻撃を耐えたルギエルはすかさず自分もギンガの胸部を殴りつけ、さらにそこから黒い波動のようなものを放ってギンガを突き飛ばす。

『グウウ!!』

『そんなものだったか? ギンガ!!』

そこでギンガやクリスの戦いを膝を突いた状態で見ていたエックス、ジード、時雨はフラつきながらも自分達ばかり休んでいられないと立ち上がる。

「先輩に任せっきりはよくないよな? 無爪!!」

『はい!! このままじゃ、ウルトラマンの名が泣きますからね!』

『なっちゃん！ 私も一緒に！』

そこへダイナも加わり、それにジードは頷き、最初にエックスが両腕を左側へ一度振りかぶってから胸の前で両腕をX字にクロスさせて放つ必殺光線「ザナディウム光線」を発射。

『「ザナディウム光線!!」』

次にジードが全身を発光させながら赤黒い稲妻状の光子エネルギーを両手に集中させた後、腕を十字に組んで放つ必殺光線「レッキングバースト」を放つ。

『「レッキングバーストオ!!」』

最後にダイナが両腕を十時に組んで発車する必殺光線「ソルジエント光線」を放つ。

『「シヨワツ!!」』

『「ムツ!?!」』

それに気付いたルギエルは右手をかざして赤いバリアを張り巡らせ、直撃を防ぐが……流石にウルトラマン3人分の必殺技を受けて完全に防ぎきることはできず、ルギエルは近くにあった岩山にまで吹き飛ばされて激突する。

『ぬあああ!!』

またそれと同時に、時雨は「ジオデバイザー」というデバイスに「サイバーカード」と呼ばれる怪獣の力をデータ化したカードを装填し、「宇宙恐竜 ゼットン」の力を一時的

にその身に宿す。

『サイバーゼットン、ロードします』

「僕だって、倒れたままじゃいけない!! ゼットン光弾!!」

2門の彼女が構えた主砲から腕のアーマーから三日月状の光弾、「ゼットン光弾」が連続発され、フィーネはそれを鞭を回転させることで防ぐのだが……。

「ゼットン火炎弾!!」

続けて主砲から時雨は強力な火炎弾を放ち、フィーネはそれに防御が耐えきれず軽く吹き飛ばされてしまう。

「なっ、ぐあああ!!?」

「助かったぜ、時雨!!」

『俺の後輩達もな!』

クリスとギンガがそれぞれ時雨、ダイナ、ジード、エックスの元に行き、感謝の言葉を述べるとギンガは一同に「光の国へ行くぞ!」と声をかける。

『光の国に?』

『ああ。そこで飛びつきりのドリームチームが待ってる!!』

『はい!!』

エックスとジードがギンガに返事を返し、ギンガは右手を時雨とクリスにかざすと彼

女等の周りを球体状のバリアが囲み、ギンガはクリス、エックスは時雨を手の平に乗せ、一同は光の国に向かって飛び立つのだった。

『くっ、逃がしたか……』

「慌てることはないだろ。 いずれ奴等の方から来る筈だ」

E P I S O D E 2 『新世代、アツセンブル』

ダークキラゾーン。

『はあ、はあ………』

『大丈夫か？ グリージョ？』

息づかいが荒くなるグリージョに対し、ゼロが声をかけるとグリージョは「平気です！」とガッツポーズを見せる。

『この程度、どうってことないですよ！』

『その意気だ。 頑張ろうぜ？』

『はい！』

ゼロの言葉にグリージョは頷いて返事をし、ゼロは彼女を安心させるように肩に手を置く。

その際、ゼロはグリージョに気付かれないように少しずつ、自分のエネルギーを彼女に分け与えているのだった。

*

光の国。

そのある場所……つまりは今、友奈達がいる場所にリブットと彼が連れ戻してきたロツソとブルが到着し、3人はそこで人間の姿に戻り、ロツソは南 春木、ブルは南 良という少年達の姿に戻る。

またリブットも同様に「テラサワ」という青年の姿となり、等身大となったタロウの元に2人を連れて来たのだった。

ちなみに、先ほどまでここにいた響は他の仲間達と共に他の世界の防衛に努めるため、彼女はここを去っていた。

「お2人をお連れしました、タロウ」

「す、すいません、妹のことになるとつい……」

「申し訳ないです。俺達、2人揃ってシスコンだな、兄貴……」

春木と良はタロウに謝罪し、そんな2人に対してタロウは「無事で良かった」と声をかける。

「あつ！ 春木先輩!! 良くん!!」

「2人とも無事だったのね!」

そこへ私服の姿に戻った友奈と東郷が2人の存在に気付くと彼女等はすぐさま春木と良の元に駆け寄る。

「友奈! 東郷! お前等も、無事で良かったよ」

春木や良の2人も彼女等2人と再会し、互いに無事だったことを喜び合う。

『レスキューご苦労だった、リブット』

「いえ、任務を遂行したままでです! お役に立てて光栄です」

テラサワの言葉にタロウは頷くとタロウは「もう少しだけ、頼まれてくれないか?」と問いかけるが……. . . . それに対してテラサワは「分かっています」と頷く。

「既にギャラクシーレスキューフォースの同志に、色々と探らせています。それに他の勇者達や念のために、s、Aqours、奏者や艦娘達の護衛も行っています」

『うむ、頼んだぞ』

「はい!」

タロウに返事を返すとテラサワは両腕に装着されたブレスレット、「Gフラッシュ」をクロスさせ、彼は光に包まれると「ウルトラマンリブット」に変身し、空へと飛び立つのだった。

「はあ、それにしてもお前等……最後まで話を聞かずに飛び出すなんて、まだまだだな。レオ兄弟にでも鍛えて貰え」

そこでそこにいた彼等以外の人物、その内の1人、ウルトラマンビクトリーこと零無が呆れた顔で春木と良の2人に苦言を零すのだが……そんな零無の尻を切歌が蹴り上げた。

「いった!? 何すんだお前!？」

「零無がいつちよ前に先輩面なんて似合わないデスよ! 後輩いじめんなデス!」

「いじめてねーよ!!」

そんな2人の光景を見て「えっ? なにどういうこと?」と戸惑いを隠せない春木達。

「それよりも、他の勇者達を護衛ってさつき聞こえたんですけど……?」

そこへ東郷がタロウに対し、先ほどのテラサワとの会話について問いかける。

『詳しい説明は全員が揃ってから行った方が良いだろう。だが、安心してくれ。君の仲間達は必ず私の仲間達を守り抜く。だから信じて欲しい』

「……でも」

今すぐにも説明して欲しそうな東郷であったが、そんな彼女の服の袖をくいくいと友奈が引つ張り、東郷は友奈の方に顔を向ける。

「今は、タロウさんの言う通りにしよう。説明してくれない訳じゃないんだし、それに

ウルトラマンが風先輩達を守ってくれるなら心強いよ！」

「友奈ちゃん、そうね……」

友奈に言われ、東郷は渋々納得。

またそこへウルトラマンオーブに変身していた青年、「高坂 紅葉」が妹の穂乃果と一緒に春木と良、友奈と東郷の元へと歩み寄る。

「お前達が、0—50のロツソとブルか。まつ、妹が心配な気持ちは俺にも分かるぜ？」

「えっ、あの……どちら様ですか？」

いきなり話しかけられ、戸惑い誰かを訪ねる良。

それに紅葉も「確かにこれじゃ分らないか」と思わず笑ってしまい、オーブオリジンのカードを取り出して春木達に見せる。

「そのカード……それにここに……あなたは……あなたも、もしかして本物のウルトラマンオーブですか!？」

「まあな。よろしくな」

春木と良は「ウルトラマンオーブダークノワールブラックシュバルツ」というオーブの偽者と戦ったことがあるため、まさか本物に会えるとは思わずなんだか2人は感激してしまう。

「えっ、この人がオーブってことはもしかして……あなたは、高坂 穂乃果さんですか!」

「うん! そうだよ! 私、高坂 穂乃果! よろしくね!! えっと、友奈ちゃん……東郷さん、だっけ?」

「は、はい!!」

こちらオリーブダークがやたらと言っていた「穂乃果」という人物なのかと分かる、友奈と東郷もなんだか変な気分になってしまい、彼女等は2人は思わず笑ってしまう。

「和菓子飽きててパンが大好きで『ファイトだよ』が口癖でスクールアイドル、4 s の発案者にしてリーダーで幼馴染みの親友が2人いる穂乃果さん?」

「な、なんでそこまで知ってるの! 別の世界の人達だよねあなた達!」

東郷にやたらと詳しく自分の詳細を語られ、ギョツと目を見開いて驚く穂乃果。

「まあ、ちよつと、あなたのことを聞く機会が色々ありまして……」

「そうなんだ……んっ? アレ? なんか、東郷さんの声、誰かに似てるような……?」

すると丁度そこへ一足遅れてウルトラマンギンガに変身し、今は変身を解いた青年、コウマと、ジードに変身していた無爪、エックスとユナイトしていた夜空、ダイナに変身していた千歌とシンフォギアや艦装を解除したクリス、時雨がやって来る。

「遅いデスよ！ 先輩方!!」

「悪い、でもゼロが言つてたろ？ 主役は遅れてやつてくるつてな」

切歌の言葉にコウマが笑いながらそう返し、また無爪、千歌の2人と面識のあつた春木と良は「久しぶり！」と手を挙げて挨拶するのだが……。

「ここが、光の国……！ 曜ねえ達にも、見せてあげたかつたな……」

無爪は春木達の存在に気付かず、感慨深そうに周囲を見回していた。

「アレ？ 無爪さん？」

「俺達の存在に気付いてないぞ」

そんな無爪の様子に春木と良は少し悲しそうにするが、千歌が無爪の代わりに「ごめんね？」と謝罪する。

「ごめんね、なつちゃんに取つて光の国は……色々ある場所だからさ……」

「千歌さん！ お久しぶりです！」

そこへ友奈と東郷が千歌の元へと歩いてくると、千歌は友奈達に気付いて彼女達と会えたことを嬉しそうにする。

彼女等もまた、お互いに面識があるのだ。

「友奈ちゃん！ 東郷さん！ 久しぶりだね〜」

またコウマは無爪と紅葉の元に行き、彼等2人に対して頭を下げ謝罪する。

「すまなかつた！ 穂乃果や千歌を巻き込んでしまったて……」

「いえ、頭を上げてくださいコウマさん！ きつと、俺が穂乃果と同じ立場なら……俺は迷わず、穂乃果を助けに行きますから」

「ですね。それに僕も、今回は千歌ねえの力が必要な気がしましたから」

紅葉と無爪はそう言つてコウマに頭を上げるように言い、それに言われた通りコウマが頭を上げるとコウマの背中をバシツとクリスが強めに叩く。

「いてえ!? 何すんだよクリス!？」

「いや、やつぱお前……良い後輩持ったなと思つてなあ」

また、零無は無爪の背中をポンツと軽く叩き、それに無爪は反応して零無の方に視線を向ける。

「えつと、僕に何か?」

「いや、お前が、ベリアルの子のジードなんだな?」

「え、ええまあ……」

無爪はもしかして昔、自分の父親……「ウルトラマンベリアル」と何かあったのか、それについて何か零無に言われるのだろうかと不安になるが、そんな彼の様子に気付いてか、零無はニカツと笑つて無爪の背中をばしばし叩く。

「そんなかしこまるなよ!! なに、お前の父親には昔、ちよつと助けられたことがあつて

な」

「僕の父さんに？」

「ああ。だから一度会ってみたかったんだよ。ジードには」

それを聞いて無爪は「そうなんですか……」とベリアルに助けられたと聞いて無爪は「あの父さんが……」と少し驚いた様子だった。

『そろそろ良いかな？』

そこでタロウがみんなもう挨拶は済んだであろうと思い、タロウは本題に入る為、まだ詳しい事情を知らない者達の説明も兼ねてまずはダークキラードとダークディアスと接触した無爪、夜空、エックス、時雨にあの2人のことを聞く。

『ダークキラードは、我々の光のエネルギーを集めそれぞれのダークネスを作ることが目的のようです』

夜空の腰に装着されたエクスデバインザーからエックスがタロウにそう説明を行い、それに時雨もまた続くようにタロウ達に説明を行う。

「それと、どうしてか分からないけど、ダークディアスは僕の偽者……つまりは僕のダークネスとも言える存在かな？ そいつを作り出したりもしました」

エックスとジードの2人はそれぞれ「エクシードX」「ロイヤルメガマスター」という形態になり、さらには時雨が操る「サイバードモラ 時雨アーマー」という怪獣と共に

ダークキラー、ダークディアスに戦いを挑んだ。

『お前達が最近この宇宙暴れ回ってる奴等か?!』

『A I Bからの捜査協力依頼だ！ お前達を連行する！』

エックスは「エクストラッガー」という短剣、ジードは「キングソード」という剣を振るってダークキラーを攻撃するが、ダークキラーはそれらを余裕で両手で受け止め、押し返して両手から光弾を放ち、ジードとエックスの2人に直撃させる。

『ダークライド イーヴィルティガ！ テラノイド！』

また時雨の操るサイバーゴモラはダークディアスと戦っていたのだが、ダークディアスが右手をかざすとそこから黒い球体のようなものが放たれ、それが弾け飛ぶと中から2人の巨人、イーヴィルティガとテラノイドが召喚されたのだ。

「ウルトラマンを、召喚した!?!」

『少し訂正。 正確にはウルトラマンのなり損ないだ』

ダークディアスはイーヴィルティガとテラノイドを操り、3人がかりでサイバーゴモラを攻撃。

『ギシャアアア!!!』

必死にサイバーゴモラは両肩の主砲から砲弾をイーヴィルティガとテラノイドに放つのだが、2体はジャンプして回避し、サイバーゴモラに2人同時に跳び蹴りを喰らわ

せる。

『グルウウ?!』

そのように、ダークキラー、ダークディアスと戦っていた一同だったが……一瞬の隙を突かれ、サイバーゴモラを倒され、ダークキラー、ダークディアスにエネルギーを奪われ、2人が持つ「キラープラズマ」というものと融合させることで2人はジードダークネス、エックスダークネス、深海時雨を誕生させたのだという。

「俺の光のエネルギーを奪ったのも、その為か……」

「私の勇者の力も……。　　ってそう言えばどうしてまた私達に勇者の力が……？」

友奈が一度失った勇者の力がどうしてまた自分達に宿ったのか、彼女は分からずタロウに問いかける。

『ふむ。　　では、先ほどの東郷くんの質問に答える形で教えよう』

タロウが言うには、ダークキラーやダークディアスがグリーンジョを狙っていることを突き止め、ゼロを護衛に向かわせることにした。

その際、「もしも」という時の為に、「伝説の超人」と呼ばれる巨人、「ウルトラマンキング」によってかつて彼女達が持っていた勇者の力を再現させたエネルギー体をゼロに持たせたのだと言う。

つまり、ゼロがダークキラージーンに囚われる直前、友奈と東郷に投げたのがそのエネルギー体だったのだ。

ちなみに、勇者全員分のエネルギーは持っていたのだが、彼女等の世界に到着したそのほぼ直後にダークキラージーンに囚われた為、ゼロが力を渡せたのは近くにいた友奈と東郷のみである。

またなぜか彼等はウルトラマンのダークネスのみならずウルトラマンと共に戦った奏者、艦娘、勇者のダークネスも作るつもりらしく、彼女等を守る為にギャラクシースキューフォースに護衛を頼んだと言うのだ。

また奏者、艦娘、勇者と違いオーブ、ジードの世界にいる μ s、Aqoursという部活の一環としてアイドルグループを行っていた少女達には戦う力はないため、恐らくダークディアスやダークキラージーンに狙われる可能性は低いだろうが念のためということで彼女等にも護衛をつけている。

『君の仲間達は必ずギャラクシースキューフォースや、我々が守って見せる。だから、信じてくれるか東郷くん?』

「……………正直、風先輩達は心配ですけど……………。分かりました、私は、あなた達を信じます。同じウルトラマンでも、春木先輩や良くんより貫禄あるし説得力もあなたが言うとおりですね」

それを聞いてタロウは頷いて「ありがという」と述べるが……東郷の台詞に春木と良は納得していない様子だった。

「貫禄無いって言い方どうことなんだ東郷……?」

「だって、どう見てもこの人ベテランの人だもの」

クスクスと悪戯つ子のような笑みを浮かべる東郷に、春木はぐうの音も出ないといった感じであり、彼は何も言い返すことができなかった。

「話を戻すが、今回の敵、ダークキラーはウルトラ兄弟に倒された怪獣や宇宙人の、怨念の集合体らしい」

「ダークディアスの正体はよく分からねえが、『ウルトラマンディアス』って言うウルトラマンの偽者で……闇の巨人達や、悪の戦士を召喚する能力を持っているらしい。恐らくあのフィーネもダークディアスに召喚された奴だろうな」

コウマとクリスの2人がそれぞれダークキラーとダークディアスについての説明を行う。

『私は一度、兄弟達の力を借りてダークキラーを一度倒したことがある』

またタロウはかつて兄弟達の力を借り、「スーパーウルトラダイナマイト」を使ってダークキラーを倒したことを話す。

『ダークディアスもまた、オリジナルと言えるウルトラマンディアスに倒されたと聞く』

「だけどあの2人は蘇った。ルギエルとエタルガー、それに偽者のフィーネを連れてな……」

「どうやって、復活したんでしょう……?」

コウマの言葉に、無爪がどうやってダークディアスとダークキラーが蘇ったのか、疑問を抱くが……その答えを知るものはここには誰一人としていなかった。

*

惑星 テンネブリス。

その惑星に1つそびえ立つ宮殿、「ダーク宮殿」。

その中ではダークキラー、ダークディアス、ダークルギエル、エタルガー、エックス、ダークネス、ジードダークネス、深海時雨、黒奈、フィーネ、イーヴィルティガ、テラノイドがおり、エックスダークネスとジードダークネスはオーブから奪い取った光をダークキラーのキラープラズマと融合させ、「ウルトラマンオーブダークネス」という

オーブのダークネスを生み出していた。

『着々と軍勢が整いつつある。こいつ等を使い、全てのウルトラマンを抹殺する！』

『私のところのダークネスはもう少し欲しいところだがなあ。せめて奴等のパートナーの東郷 美森、暁 切歌、雪音 クリスのダークネスは作りたい』

そんなダークキラーとダークディアスに対し、ルギエルは「好きにすれば良い」と声をかけ、ダークディアスとダークキラーは視線をルギエルに送る。

『ただし、ギンガは私がやる』

『なら私は、ビクトリーを貰おう』

それによくようにエタルガーがビクトリーと戦うことを宣言し、ルギエルは「良いだろう」と応える。

「奏者共は私がやるぞ、特に雪音 クリスとはね……………。余裕があれば彼女のダークネスも作っておいてあげる」

フィーネもまた狙いを奏者に定め、ダークディアスもダークキラーも「好きにしろ」と応えるのだがその直後……………。

オーブダークネスに青い電撃のようなものが直撃し、驚いて一同が攻撃が飛んで来た方を見るとそこには青いオーラに包まれた巨人が立っていた。

『本来の目的を忘れないでくれよ？ まだギンガ、ビクトリー、ロツソ、ブルのダークネ

スを作り上げていないだろうか？　ダークディアスの方は忘れてはいないようだが………』

『分かってている。　だが解せんな。　なぜそこまでダークネスに拘る？　それに、ウルトラマンのダークネス以外にもなぜ勇者や艦娘、奏者のダークネスまで………』
 ダークキララーが青いオーラの巨人にそう問いかけるが、巨人は「別に………」とだけ応える。

『私はただ、光も闇も、正義も悪も………等しく同じ価値しかないことを照明したいだけさ。　ウルトラマン達にな………。　その為には、勇者や艦娘に奏者のダークネスも必要だ。　特に、ウルトラマンと最も近くで共に戦う者達はな………』

*

光の国。

その上空で突然一つのモニターのようなものが浮かび上がり、そこにはダークキララーと、左端にダークキララーゾーンに囚われたゼロとグリーンジョの姿が映し出される。

『我が名は、ウルトラダークキラー』

『そして私はご存じダークディアス』

『ウルトラマンゼロとグリーンジヨは、我々の手の内にある』

『助け出したければ惑星テンネブリスまで来な。ダークキラージーンに囚われている

奴等の命は、そう長くは持たないぞ?』

そう言い終わるとダークキラーとダークディアスは高笑いをしながらモニターを消し去り、春木と良は「ヒナタ!!」と心配そうに彼女の名を呟く。

「先輩、ごめんなさい……………」 私達が、ヒナタちゃんを守っていれば……………」

あの時、タイミング的にも勇者の力を再び持つ前の東郷や友奈ではグリーンジヨを助けることはほぼ不可能に近かった。

しかし、それでもグリーンジヨを守れなかったことに悔しさや申し訳なきがこみ上げ、東郷と友奈は春木と良の2人に頭を下げて謝る。

「いや、東郷達は悪くない。お前達には責任はないんだ」

「そうだ。ヒナタは必ず俺達を取り返す。それに、東郷先輩に頭下げられては俺も

調子が狂ってしまう」

『しかし、惑星テンネブリス……………。あそこはマイナスエネルギーが渦巻き、誰

も近寄らない暗黒の星……………。罨の可能性が高いぞ』

タロウは春木達に惑星テンネブリスに行けば毘にかかる可能性を考慮し、それを夜空は恐らく不利な場所に春木と良を誘き寄せ、そこで2人のダークネスを作り出すつもりなのだろうと予想し、それを夜空は春木達に伝えるが……。

「分かっていきます。それでも俺達は……行きます。ヒナタを助けに」
「だが、俺達だけでは……だからどうか、皆さんの力も貸して頂けないでしょうか」

春木と良の2人は真面目な眼差しでコウマ達に頼み、それに友奈や東郷も同じように頭を下げて頼み込む。

「私達からも、お願いします!!」

「お前達の気持ちは、痛いほど分かる。大事な妹だもんな」

春木達の言葉に、真っ先に紅葉が穂乃果の頭を撫でながらそう返す。

「勿論だ。俺は最初からそのつもりだけぞ？」

「ジーツとしてても」

「ドーにもならないからね！」

今度は零無、千歌、無爪がそう言い放ち、それにコウマも「おうよ!!」と春木達の頼みに応える。

「ゼロとヒナタちゃんを、助け出そうぜ！」

「あたし達も、微力かもしれないが力を貸すぜ？」

それに続くようにクリスも力を貸すように言い、それに春木、良、友奈、東郷の4人は「はい!!」と頷く。

『みんな、気をつけるんだぞ?』

「任せろつてタロウ! 俺達、ニュージエネレーションヒーローズの絆は誰にも負けない! 必ず、2人を連れて戻つてくるさ!!」

「ニュージエネレーションヒーローズね…….ならあたし達は…….さしずめニュージエネレーションヒーローズつてところか? なんてな?」

コウマの言葉を聞いたクリスが周りにいる切歌、時雨、穂乃果、千歌、友奈、東郷の姿をそれぞれ見ながらそう呟くとそれを聞いた切歌、穂乃果、千歌、友奈は「良いですねえ!!」とその名前をかなり気に入ったようだった。

「僕達の場合、何がニュージエネレーションなのか分からない気もするけどね」

ただ時雨だけは苦笑しながらその名前にやんわりとツツコミを入れていた。
「つて待て待て。東郷達もまさか一緒に行くつもりなのか?」

クリス達の様子を見て春木はまさか東郷達も行くつもりなのかと聞くと、東郷も友奈も「勿論!!」と返事して頷く。

「あたし達の仲間は元の世界を守る役目もあるし、一応は自衛もできる。けどよ、一部

の奴等はこつちから殴り込みに行っても良いと思うんだよ！ あたし自身、あの偽
フイーネをぶつ飛ばしたいしな！」

東郷や友奈の心配する春木に対し、クリスがそう声をかけるが……春木、そ
れにもどこか納得していない様子。

「先輩、良くん！ 私達も、ヒナタちゃんを助けたいんだ！ だって、私と東郷さんは
勇者だから、みんなと一緒にいきたい！」

強く決意した顔と言葉を受け、春木と良は互いに顔を見合わせる。

「分かった。一緒に行きこう！」

「足を引つ張るなよ、東郷先輩？」

春木は友奈達の熱意に負け、良は軽口を叩きながらも2人の同行を認めるのだった。

「穂乃果……お前は……」

「勿論、私も行くよお兄ちゃん！」

紅葉は穂乃果に「ここに残ってても良いんだぞ？」と声をかけようとしたのだが、そ
れよりも前に穂乃果が遮り、彼女もまた同行する意思を見せる。

「ずっとお兄ちゃんは私や、みんなを守ってくれた！ だから、今度は私がお兄ちゃんを
守るよ!! これでも、お兄ちゃんが旅に出てから鍛えてたんだから！」

ガッツポーズを見せながらそう言い放つ穂乃果に紅葉はなんだかおかしくなり、苦笑

してしまおう。

「穂乃果なら、そう言うと思つてたけど……分かったよ」

「私も行くからね、なつちゃん!!」

穂乃果に続くように、今度は千歌が無爪にそう声をかけ、それを受けて無爪は呆れたような溜め息を吐く。

「言つても止めないんだろぅね、バカ千歌ねえ……」

「当然!」

そして、コウマ、零無、夜空、紅葉、無爪、春木、良、クリス、切歌、時雨、穂乃果、千歌、東郷、友奈が並び立つ。

「それじゃ、みんな」

「行こうぜ!!」

挿入歌「Hope the youth」

クリスとコウマがそう言い放つと、最初にコウマが短剣のようなアイテム、「ギンガスパーク」を取り出し、両端のブレード部分を展開すると先端からギンガの姿をしたソフビ人形のようなアイテム、「スパークドールズ」を手に取り、コウマはスパークドールズを掴み取るとギンガスパークの先端にスパークドールズの足部分に押し当ててリードさせる。

『ウルトラライブ！ ウルトトラマンギンガ！』

「ギンガああああああ!!!」

そしてギンガスパークを掲げ、コウマは「ウルトラマンギンガ」へと変身を完了させる。

続けて零無はスティック状のアイテム、「ビクトリーランサー」を「ランサーモード」という形態に変形させて構えると先端から黒いビクトリーのスパークドールズが現れ、それを掴み取って中央部分にリードさせると先端の矢尻部分が開きビクトリーの顔を象った彫刻が現れる。

『ウルトラライブ！ ウルトトラマンビクトリー！』

すると1人のウルトラマンがビクトリーランサーから飛び出し、零無が光に包まれるとその光はそのウルトラマンの胸部にあるカラータイマーの中へと入り、零無は黒い巨人……「ウルトラマンビクトリー」へと変身を完了させた。

「行くぞエックス！」

『ああ、ユナイトだ！』

続いて夜空は「エクスデバイザー」というデバイスの上部のボタンを押し側面のパーツをX字に展開したXモードに変形させるとエックスのスパークドールズが出現、それをリードさせた後、夜空はエクスデバイザーを掲げる。

『ウルトラマンエックスと、ユナイトします』

「エックス—————!!!」

『エックス、ユナイトッド!!!』

『イイイツサアアア————ッ!!』

それによつて夜空はエックスとユナイトし、彼は「ウルトラマンエックス」へと変身する。

今度は紅葉が「オーブリング」というアイテムを取り出し、1枚のカードをオーブリングの中央にリードさせる。

『覚醒せよ、オーブオリジン!』

「オーブカリバー!!」

するとオーブリングからオーブカリバーが出現し、紅葉はそれを掴み取り、中央のカリバーホイールというリング部分を回すと、ハーモニカのメロディーのようなものが流れ、紅葉は「ウルトラマンオーブ オーブオリジン」へと変身。

「ジーツとしても、ドーにもならねえ!!」

また無爪は「ジードライザー」というアイテムを右手に持ち、腰のカプセルホルダーから「初代ウルトラマン」が描かれたカプセルを取り出し、スイッチを押して起動させるとそこからそのウルトラマンが出現。

「融合中!!」

ウルトラマンのカプセルを装填ナツクルに装填させた後、さらにそれとは別に黒き闇の巨人、「ウルトラマンベリアル」のカプセルを取り出し起動させると今度はそこからベリアルが出現。

「アイ、ゴー!!」

同じくベリアルのカプセルをナツクルに装填し、ジードライザーで装填したカプセルをスキャンする。

「ヒア、ウイー、ゴー!!」

『フュージョンライズ!』

「決めるぜ、覚悟!!」

そしてジードライザーを掲げて胸の前でスイッチを押すとウルトラマンとベリアルの姿が重なり合い、無爪は2人のウルトラマンの力を合わせた「ウルトラマンジードプリミティブ」へと変身を完了させたのだ。

「はああああ、ハア!! ジイイイイイイイイイイ!!」

『ウルトラマン! ウルトラマンベリアル! ウルトラマンジード!! プリミティブ!!』

続けて春木と良は2人同時に「ループジャイロ」というアイテムを取り出して構える。

「オレ色に染め上げろ!! ループ!!」

最初に春木が空中に浮かんだホルダーを手に取り、そこから「ウルトラマンタロウ」の絵が描かれた火のクリスタルを取り出す。

「セレクト!! クリスタル!!」

タロウクリスタルの角を2つ立ててループジャイロの中央に春木はセット。

『ウルトラマンタロウ!』

「纏うは火!! 紅蓮の炎!!」

最後に春木はループジャイロのトリガーを3回引いて右腕を掲げる。

「はあああ、はあ!!」

『ウルトラマンロツソ! フレイム!!』

春木は炎に包まれ、赤い巨人「ウルトラマンロツソ フレイム」へと変身。

「セレクト!! クリスタル!!」

続けて今度は良がホルダーから「ウルトラマンギンガ」の描かれた水のクリスタルを取り出し、それをループジャイロにセットさせる。

『ウルトラマンギンガ!』

「纏うは水!! 紺碧の海!!」

また春木と同様に良もループクリスタルのトリガーを3回引き、彼は左腕を掲げる。

「はあああ、はあ!!」

『ウルトラマンブル! アクア!』

良は水に飲み込まれ、青い巨人「ウルトラマンブル アクア」へと変身を完了させる。

「♪♪」

クリスと切歌は「歌」を口ずさみ、クリスは「魔弓・イチイバル」、切歌は「獄鎌・イガリマ」というシンフォギアをそれぞれ身に纏う。

時雨もまた「駆逐艦 時雨」の力を宿した「艦装」と呼ばれる装備を背中に装着し、戦闘準備を完了させる。

「時雨、行くよ!」

さらに穂乃果はギンガスパークに似た青いアイテム、「ギンガライトスパーク」を右手に持ち、その先端にティガのスパークドールズをリードさせてそれを掲げる。

「ファイトだよ! 私!!」

『ウルトラライブ! ウルトラマンティガ!』

それによって光に包まれた穂乃果は「ウルトラマンティガ マルチタイプ」に変身。「本当の戦いは、ここからだよ!」

穂乃果と同じようにギンガライトスパークを取り出し、千歌はダイナのスパークドールズをライトスパークにリードさせてそれを掲げる。

『ウルトラライブ！ ウルトラマンダイナ！』

光に包まれた千歌は「ウルトラマンダイナ フラッシュタイプ」に変身を完了。

「行くよ、東郷さん！」

「ええ、友奈ちゃん！」

最後に友奈、東郷の2人はスマホを取り出し、そのアプリを起動させると2人はそれぞれ勇者の姿に変身。

そしてギンガ、ビクトリー、エックス、ロツソ、ブルがそれぞれクリス、切歌、時雨、東郷、友奈を光の球体を作り出して彼女等を包み込むとその手に乗せて一同はテンネブリスへと向かって飛び立つのだった。

『「ニュージエネレーションか……。我々にも頼もしい仲間が増えましたね』

タロウはギンガ達が飛び立つの見送りながら、いつの間にかやってきていた他の兄弟達にボソツと呟くのだった。

その頃、光の国のある場所で……。

そこでは青き光の巨人、「ウルトラマンヒカリ」ともう1人、金色のプロテクターと赤い身体に銀色のラインの入った1人のウルトラマンが共同で何かを作成しているようだった。

『ギンガ達はどうかやらグリーンジョとゼロを助けに行ったようだ。そちらはどうだ？』

『ああ、もう少しで完成する。みんなの決着がつく前に届けられるだろう』

ヒカリの問いかけにもう1人のウルトラマンがそう応え、彼等は「あるアイテム」の作成を急ぐのだった。

*

惑星 テンネブリス。

そこにギンガ、ビクトリー、エックス、オーブ、ジード、ロツソ、ブル、クリス、切歌、時雨、ティガ、ダイナ、友奈、東郷が地上に降り立ち到着。

クリス、切歌、時雨、友奈、東郷はバリアが解除されると同時にギンガ達の手の上から降りる。

その時……ギンガ達の目の前に巨大なワームホールのようなものが出現し、そこからエックスダークネス、ジードダークネス、オーブダークネス、イーヴィルティガ、テラノイド、深海時雨が出現。

「いきなり人の家に土足で踏み込むなんて……行儀がなってないんじゃないかい？」

『お前等の方から呼び出したんだろぅが!! それに、人様攫つて置いて行儀がどうこう言える立場か!!』

深海時雨の発言にビクトリーがツツコミを入れ、そんなビクトリーを宥めるようにギンガが彼の肩に手を置く。

『けど、手間が省けるってもんだ!! 行くぜ、みんな!!』

挿入歌「ウルトラマンギンガの歌」

ギンガのかけ声を合図に、ギンガ含めビクトリー、エックス、オーブ、ジード、ロツソ、ブル、クリス、切歌、時雨、ティガ、ダイナ、友奈、東郷は身構えて一斉にダークネス軍団に立ち向かう。

『ハハハ俺達か!!』

エックスはエックスダークネス、オーブはオーブダークネス、ジードはジードダークネス、時雨は深海時雨、ティガはイーヴィルティガ、ダイナはテラノイドと激突し、戦

闘を開始する。

「ここは僕達が引き受けます!!」

『生きてまた会いましょう!!』

時雨、ジードの言葉を受けてギンガ達は頷き、彼等は手の平にクリス達を乗せて先に進む。

『つてかジード、死亡フラグみたいな台詞言うなよ。まあ、そんなフラグぶつ壊すけどなあ!!』

最後にギンガがそんな言葉を残しながら一同はダーク宮殿に侵入。

入り口辺りではダークルギエルとエタルガー、そしてファイネが待ち構えており、ギンガ達は一度大地に降り立つ。

『待っていたぞ、ギンガ!!』

『ビクトリー共々、地獄へ送ってやる!!』

「奏者共、纏めてかかって来なさい?」

そう挑発するルギエル、エタルガー、ファイネにギンガ達は「上等だ!!」とでも言うように前に出て手の平に乗っていたクリスと切歌を降ろす。

『フン! 俺達をご指名らしいな!!』

『高くつくぞ! 俺達の指名料はな!』

「本物と戦った時より人数は少ねえが……それでもあたし等は負けねえ！」
「デス!! 切り刻むデスよ!!」

ビクトリーはロツソ達に「お前達はゼロとグリーンジョの元に行け!」と言い放ち、ロツソ達はそれに「はい!!」と頷く。

そこからロツソ達は飛び立ってゼロ、グリーンジョの元へと向かう。

そしてギンガ、ビクトリー、クリス、切歌はルギエル、エタルガー、フィーネに立ち向かう。

*

ダークキラゾーン。

そこにロツソ達は到着し、すぐにゼロとグリーンジョの姿を発見し、友奈と東郷を一旦手の平から降ろして2人に駆け寄る一同。

「ヒナタちゃん!!」

『『ヒナタ!!』』

『良にいい、春にいい!! それに友奈さんに東郷さんまで!! 来てくれたんですね……』
つて友奈さん達、その姿は……』

グリージョはロツソ達が来てくれたことに安堵するのだが……その時。

『気を抜くな!! まだ奴等が!!』

『デヤアアア!!』

そこに突如としてダークキラークがロツソとブルの背後から出現し、2人を腕の刃「アイストラッガー」で背中から斬りつけ、2人にダメージを与えるダークキラーク。

『うああああ!!』

「2人とも!!」

友奈と東郷がロツソ、ブルの心配をするが次の瞬間、2人の元に黒い光弾が飛んで来て咄嗟に友奈と東郷は後方に飛んで回避。

「やほやほく? 待ってたよく?」

『貴様等の相手は俺達だ』

友奈と東郷の前には黒奈と等身大になったダークディアスが現れ、東郷は怪訝な顔を浮かべながら気になったことをダークディアスに問いかける。

「ダークディアス、だったかしら? あなた、最初見た時は巨大な姿だったわよね? な

ぜ小さく……」

『フン、ハンデだ。 一方的じゃ、面白くは無いだろ!!』

ロツソ、ブルはダークキラーに左右から拳を放つが、ダークキラーはそれを素手で受け止めるとそのまま押し返し、両腕のアイスラッガーでロツソとブルを纏めて斬りつける。

『ウアアア!!?』

『ウルトラの名を冠する者は全て抹殺する!! 貴様等のような、未熟者でもなあ!!』

『又ウ、誰が未熟だ!! 大体、ウルトラの名つてアンタにもついてるぞ!!』

ブルはダークキラーは指差し、そう言い放つとダークキラーは一瞬黙り込んだが……すぐに「黙れ!!」と揚げ足を取られたことに激怒し、ブルの腹部を蹴りつける。

『ループスラッガーロツソ!!』

そこへロツソは頭の2本角に収納してある2本の短剣、「ループスラッガーロツソ」を取り出し、ダークキラーに飛びかかって右手に持つスラッガーロツソを振りかざすがダークキラーはロツソの右腕を掴んで受け止める。

そこでロツソは今度は左手に持つスラッガーロツソを横一閃に振るうがダークキラーは素早く後方に下がり、怨念エネルギーの光弾を無数に飛ばす「キラークラスト」を放ち、ロツソに直撃させる。

『デューアアア?!?!』

またダークディアスは東郷の放つ2丁の短銃の銃弾を次々と右手に装着された「ダークディアスブレス」から出現させた闇のエネルギーを纏った剣「ダークディアスブレード」で弾きながら接近し、一気に近づくと腹部目掛けて蹴りを放つ。

「くっ?!?!」

咄嗟にボックスステップの容量で回避し、東郷はなるべくダークディアスから距離を離そうとするのだが……ダークディアスはそうはせまいと彼女を逃がさず、一気に接近してダークディアスブレードを振るって斬りかかり、それを見えないバリアが防ぎ、東郷の身を守る。

(これって、もしかして精霊バリアと同じ……)

「きゃあああ?!?!」

そこに東郷の背中に黒奈に投げ飛ばされた友奈が激突し、そのまま2人はバランスを崩して地面に倒れ込んでしまう。

「ご、ごめん東郷さん!!」

「うっ、大丈夫。平気よ、友奈ちゃん」

「そうやって謝ったりとかしてる暇あるのかなあ?」

そんな友奈と東郷に向かって黒奈の拳が放たれ、2人は咄嗟に攻撃をジャンプして回

避。

ダークディアスは一度ブレードを仕舞うと今度は友奈と東郷に向かってダークディアスブレスから放つ闇の刃「ダークディアススラッシュ」を連射して放つ。

それを東郷はどうにか銃弾を放ちながら相殺し、友奈も拳を振るってなんとかダークディアススラッシュを弾く。

しかし、いつの間にか友奈の背後に黒奈が回り込んでおり、彼女は友奈の背中にストリートキックを繰り出し、そのまま勢いよく蹴り飛ばす。

「きゃあああ!!?!」

「友奈ちゃん!!」

しかし、友奈はなんとか空中で体勢を立て直し、着地するとそのまま黒奈の方に振り返り、黒奈に向かって駆け出して勢いよく拳を突き出して放つ強力なパンチ、「勇者パンチ」を黒奈に向かって繰り出す。

「こんのおお!!!」 勇者あ!! パンチ!!」

「勇者………パンチ!!」

それと同時に黒奈も拳を握りしめて放つ強力なパンチ、「勇者パンチ」を繰り出し、2人の拳が激しくぶつかり合う。

*

挿入歌「暗黒の宴」

「エレキング電撃波!!」

「宇宙怪獣 エレキング」の力を宿したアーマー、「エレキングアーマー」を纏ったエックスは右腕に装着された銃から放つ強力な電撃光線「エレキング電撃波」をエックス・ダークネスに向かって放つ。

しかし、それをエックス・ダークネスは「宇宙恐竜 ゼットン」の力を宿した「ダークネスゼットンアーマー」を身に纏い、自分の周囲にバリアを張り巡らせて攻撃を防ぎきる。

『アレは、ゼットンアーマーか!?!』

「モンスアーマーまでコピーしてるってことか……!!」

エックスと夜空はエックス・ダークネスがモンスアーマーまでコピーしていることに

驚き、そのままエックスダークネスは胸から発射する火炎弾「ゼットンダークネス火炎弾」を放つ。

『グッ、Xクロスキック!!』

それによって周囲が爆発するエックスだが、エックスはその爆発の炎の中から飛び出し、アーマーを解除して両腕、両足を開き、X字の姿勢からエネルギーを集中した右脚で繰り出す飛び蹴り「Xクロスキック」をエックスはエックスダークネスに繰り出し、エックスダークネスは両腕を交差して防ぐ。

『サイバーキングジョー、ロードします』

『キングジョーデストロイ砲、発射!!』

時雨はジオバイザーに「宇宙ロボット キングジョー」のサイバーカードを装填し、両腕の主砲にキングジョーのエネルギーを宿した光線「キングジョーデストロイ砲」を発射。

『サイバーブラックキング、ロードします』

『ブラックヘルマグマ……』

それに対して深海時雨もジオバイザーに似たデバイスにサイバーカードらしきものを装填し、「用心棒怪獣 ブラックキング」の力をその身に宿し、深海時雨は時雨の放った光線を大きくジャンプして避けると上空から強力な火炎光線「ブラックヘルマグ

マ」を放つ。

「なっ、うわあああ!!!?」

直撃こそしなかったものの目の前が爆発し、それによって軽く吹き飛ばされる時雨。

そのまま深海時雨は容赦なく倒れ込んだ時雨に向かつて砲弾を撃ち込んでいき、すぐさま立ち上がった時雨も応戦するために砲弾を撃ち、2人は向き合うように横に走りながらの撃ち合いを演じる。

『シエア!!』

オーブと戦うオーブダークネスはオーブが振るって来たオーブカリバーをそれと似た剣、「ダークネスカリバー」で防ぎ、押し返してダークネスカリバーを横一閃に振るって攻撃を繰り返す。

『グウウ!!』

オーブはなんとかそれを後ろに下がることで躲し、再びオーブカリバーをオーブダークネスに振り下ろすがオーブダークネスはダークネスカリバーを振るって弾く。

『チャツ!!』

そこに背後からティガがオーブダークネスに殴りかかって来たのだが殴られる前に足を後ろに突き出すようにしてオーブダークネスはティガを蹴り飛ばす。

『グウ………!!』

『シヤア!!』

そのまま蹴り飛ばしたティガをイーヴィルティガが羽交い締めにするが、ティガはイーヴィルティガの足を思いつきり踏みつけ、それによって怯んだところでイーヴィルティガの胸部に肘打ちを決める。

『チエア!!』

さらに追い打ちとばかりにティガはイーヴィルティガにチョップを繰り返すが、イーヴィルティガはそれを躲すと同時に後ろ回し蹴りをティガに叩き込み、ティガはそれによつて膝を突いてしまう。

『グツ!?!』

『シエア!!』

膝を突いたティガに向かって容赦なく蹴りをさらに叩き込むイーヴィルティガ。

蹴りつけられたティガは地面を倒れて転がり、オーブの足下まで転がってしまった。

『穂乃果!!』

そんなティガをオーブは立ち上がらせ、オーブはティガと始まりの巨人、「初代ウルトラマン」の力を融合させた「スペシウムゼペリオン」に姿を変える。

『スペシウムゼペリオン!』

『行くぞ、穂乃果!!』

『うん、お兄ちゃん!!』

オーブは右腕、左腕の順番に両腕をL字に広げてエネルギーを貯めてから十字に組み直して放つ必殺光線「スペリオン光線」を放ち、それと同時にティガは両腕を腰の位置まで引き前方で交差させた後、左右に大きく広げてエネルギーを集約してL字型に腕を組んで放つ必殺光線「ゼペリオン光線」をオーブ、ダークネスとその隣に並んだイーヴィルティガに向かって同時発射。

『スペリオン!!』

『ゼペリオン!!』

『ダブル光線!!』

それに対してオーブ、ダークネスはダークネスカリバーを掲げて頭上に円形を描き、それをダークネスカリバーを相手に向けて放つ「ダークネススプリームカリバー」を発射し、互いの光線が激突。

『デエエエヤ!!』

しかし、流石にウルトラマン2人分の光線を完全に防ぎきるのは難しく、徐々に推されて行くが……。

その前にイーヴィルティガが空中に浮かび上がり、両手を引いてから大きく広げてエネルギーを集約し、狭めながら交差させて両手を逆L字に組んで発射する「イーヴィル

「シヨット」をティガとオーブに向かって放ち、それをオーブとティガは光線を中断し、互いに左右に飛んで躲す。

『シエア!!』

ジードはジードダークネスに飛びかかって膝蹴りを繰り出し、それを受け流したジードダークネスは逆にジードの腹部に蹴りを叩き込む。

『グウウ!!? ダア!!』

負けじとジードもジードダークネスの首筋にチョップを叩き込み、怯ませたところにジードは掴みかかるが……ジードダークネスは力尽くでジードの腕を振り払い、後ろ回し蹴りを喰らわせる。

『ガツ!?!』

『デアアア!!』

そこからジードダークネスは後方に飛ぶように下がりながら口から赤色の強力な超音波を放つ「レッキングダークネスロアー」を放つ。

『マイティトレッカー!』

「ウルトラマンダイナ」と「ウルトラマンコスモス」の力を融合させた姿、「マイティトレッカー」にジードは姿を変えるとサマーソルトキックのような動きでジードは攻撃を回避し、そのまま空中に浮かび上がると身体を高速で回転で接近し、ジードダークネス

は身構えるが……突如目の前でジードが空中で停止したかと思うとそのまま素早い跳び蹴りが放たれ、ジードダークネスに繰り出される。

しかし、それをジードダークネスは両腕を攻撃が当たると直前にギリギリ交差して防ぐ。

『シヨワツ!!』

両腕に溜めた青白いエネルギーを大型の三日月状にして放つ光のカッター「フラツシユサイクラー」をテラノイドはダイナに向かって放ち、ダイナは前方に転がるように回避するとすぐさま立ち上がり、両腕を十時に組んで放つ必殺光線「ソルジェント光線」を放つ。

だが、それをテラノイドは光の壁を作って敵の攻撃を防ぐ「ウルトラバリアー」を張り巡らせて光線を防ぎ、バリアーが碎かれる直前に上空に飛んでテラノイドも両腕を十時に組んで「ソルジェント光線」を発射。

『きやあ?!』

直撃こそしなかったものの足下が爆発し、吹き飛ばされるダイナ。

『シユア!!』

吹き飛ばされたダイナをそのまま急降下しながら踏みつけようとするテラノイドだが、身体を転がし攻撃を回避。

『シヨワツ!!』

少しだけテラノイドから距離を取るとダイナは真っ直ぐテラノイドに駆け出して行き、2回ほどバク転をして一気にテラノイドに詰め寄り、胸部に蹴りを喰らわせる。

『グウウ!!?』

一方、ルギエル達と戦うギンガ達は……。

『今度こそ決着をつけるぞ、ギンガ!!』

『上等だ!!』

青い光の槍、「ギンガスパークランス」をギンガはルギエルに振るい、ルギエルも黒い闇の槍、「ダークスパークランス」を手に2人は互いの武器を激しくぶつけ合わせる。

『ムウン!!』

ルギエルはギンガを押し返すと近距離から胸の赤い結晶体から放つ闇のエネルギー弾「ダークルギエルビート」を放つ。

それをギンガは空中へとジャンプして躲し、全身のクリスタルを赤に輝かせ、無数に生み出した火炎弾を放つ「ギンガファイヤーボール」を放つ。

『ギンガファイヤーボール!!』

しかし、ルギエルはそれをダークスパークランスを高速で横回転させることで防ぐ。

エタルガーは全身から放つ赤い光弾をビクトリーに向けて飛ばすが、ビクトリーは右

腕を「宇宙大怪獣 ベムスター」の腹部を模した盾に変化させ、光弾を吸収する。

『ウルトランス！ ベムスター！ シールド!!』

『ツェア!!』

光弾を吸収した後、ビクトリーは素早く今度は右腕を「EXレッドキング」という怪獣の右腕……。「EXレッドキングナックル」に変化させると地面を殴りつけ、そこから相手に向かってマグマが吹き出す「フレイムロード」を繰り出す。

『ウルトランス！ EXレッドキング！ ナックル!!』

『グウ、ハアアアア!!』

しかし、エタルガーそれを自慢の防御力で敢えて受けきり、マグマを引き裂いてビクトリーに向かって飛び出し、エタルガーはビクトリーの胸部に拳を叩き込む。

『グアツ!!?』

『ウルトランス！ シェパードン！ セイバー!!』

そこでビクトリーは青き剣、「シェパードンセイバー」を出現させると殴りかかって来たエタルガーの攻撃をしゃがみ込んで躲しつつ、すれ違いざまに斬りつける。

『グツ!!』

またファイネと戦うクリスと切歌は……。

クリスはアームドギアとして形成した両手に携える2丁のクロスボウから多連装の

エネルギー矢を掃射、高速連射する「QUEEN'S INFERNNO」をフィーネに放つが、フィーネは肩部の鞭状突起を伸ばして陣を組みバリアを展開する「ASGAR D」で攻撃を防ぎ、鞭を伸ばしてクリスの足に絡ませて空中に放り投げる。

「うああ!!?」

「後ろががら空きデスよ!!」

そこに切歌が背後からフィーネに向かって鎌状のアームドギアを振りかざすがフィーネはしゃがみ込んで躲し、足を後ろに突き出して切歌の腹部を蹴りつける。

「ぐっ!!」

「チツ、ちよせえ!!」

クリスはフィーネの振るって来た鞭を躲しながら一気に詰め寄ると短銃にしたアームドギアを向け、フィーネに向かって銃弾を放つ。

しかし、近距離で放たれてるにも関わらずフィーネは絶妙にそれらを避け、一瞬の間を突いて膝蹴りを喰らわせる。

「かはっ!!?」

「クリス先輩!!」

肩部プロテクターを展開し、それぞれの先端に鎌を装備させて自在に操る「封伐・Pイ N o 奇お」という技を発動させながらクリスの元に駆け寄り、クリスからフィーネを引

き離すため、先端の鎌を振るってフィーネに繰り出す。

切歌の考えた通り、それによってフィーネは後ろに後退。

「確かに私は本物のフィーネではないが、だからと言つて貴様等が勝てる道理があると思ふな!!」

*

『ウルトラマンロツソ！ シュテンドウジ!!』

胸部が黒くなりX字の赤い鎧のようなものが装着され、赤かった頭部と足と手の部分は桃色に変化し、その後腕に赤いガントレットのようなものが装着された「シュテンドウジ」という形態になったロツソは拳を前に突き出す度に放つ衝撃波「ナツクルインパクト」をダークキラーに連続して発射。

『ナツクルインパクト!!』

しかし、ダークキラーは両腕のアイスラッガーでそれらを切り裂き、両腕のアイスラッガーを飛ばして敵を切り刻む「デススラッガー」を繰り出す。

『ウルトラマンブル！　ダイテング!!』

『ルーブスラツガーブル!!』

そこに青かった足の部分と頭部、胸部は白に、腕は黒になり、右肩にはカラスの嘴を模した黒いシオルダーが現れ、左には黒い翼のようなシオルダーが現れた「ダイテング」と呼ばれる形態に変化したブルが自身の頭部に収納してあった一本の剣、「ルーブスラツガーブル」を取り出し、さらにダイテングの力によってスラツガーブルの刀身を伸ばし、また一つの光の刀「生大刀」を形成。

ロツソの前に立ち、スラツガーブルと生大刀でデススラツガーを弾き飛ばそうとするのだが、変幻自在に飛んでくる為、完全に防ぎきれず、2人はデススラツガーに斬りつけられる。

『ウアアアア!!?!』

膝を突き、胸部のカラータイマーが点滅を始めるロツソとブル。

『ぐつ、お、おい兄貴……なんか、エネルギー減るのが凄く早く感じるんだが……!』

『俺もだ。　やっぱり、この空間のせいか……?』

膝を突くロツソとブルにダークキラーは容赦なく2人を蹴りつけ、倒れ込んだブルに向かつて拳を叩き込もうとしてくる。

『おわっ!?!』

しかし、ブルはスラツガーブルと生大刀を交差して拳を防ぎ、その隙に後ろからロツソが背中にダークキラーを殴ろうとして来るがダークキラーはブルを蹴り飛ばして振り返りざまに腕のアイスラツガーでロツソを斬りつける。

『ぐはあ!?!』

「勇者あ!! キーッック!!」

急降下しながら炎をまとった飛び蹴り「勇者キック」を友奈は黒奈に向けて放つが、それを黒奈も右足に炎を纏い、薙ぎ払うような蹴りを放つことで向かって来た友奈を弾き飛ばす。

「勇者………キック!!」

「きゃああ!?!」

また一度なんとかダークディアスから距離を取った東郷は狙撃銃を構え、銃弾を次々にダークディアスに撃ち込んで行こうとするが………ダークディアスはそれらを余裕で回避しながら徐々に東郷に接近。

「くっ!?! 素早い………!」

「東郷さん!!」

『光は闇に勝てはしない。奏者も、勇者も、艦娘も、それは同じこと………。』

おのれの無力さを嘯み締めて死んでいけ！」

一気に距離を詰めるとダークディアスは拳を放ち、それを咄嗟に友奈が2人の間に割って入り、彼女が両腕を交差して攻撃を防ぐのだが……そのままダークディアスは2人纏めて殴り飛ばしてしまう。

「きゃあああ!!!」

『ダークディアス!の言う通り、光は闇には勝てん。それを今から、教えてやろう!』

ダークキラーは両手をかざすとそこにダークキラーゾーンで少しずつ奪ってたゼロの光のエネルギーを集め、それを闇のエネルギーに変換するとダークキラーは両腕を前に突き出し、新たなダークネスを生み出す。

『アレは……まさか!』

それはゼロに酷似した巨人、「ウルトラマンゼロダークネス」であり、ゼロダークネスの姿を見たゼロは驚愕した様子を見せる。

『ゼロ……ダークネス……!?』

自分達に襲いかかろうとするゼロダークネスに、ゼロは先駆けて拳を放ち、攻撃を仕掛けるがゼロダークネスは左手で受け止め、右拳によるアッパーカットをゼロの顎に決める。

『ぐあああ?!』

『トリヤア!!』

またグリーンジョもゼロに続いてゼロダークネスに殴りかかるがゼロダークネスはそれを受け流し、グリーンジョの首を掴みあげる。

『あぐっ!!』

『グリーンジョを離しやがれ!!』

そこでゼロの蹴りがゼロダークネスの腹部に叩き込まれ、ゼロダークネスの手からグリーンジョを解放させることに成功したのだが……。

体力が消耗しているせいでゼロは膝を突いてしまい、そんなゼロにゼロダークネスは足を振り上げて蹴り飛ばす。

『ガアア!!?!』

『ゼロさん!! ヒナタ!!』

ゼロとグリーンジョを助けに行こうとするロツソとブルだったが、そうはさせまいとダークキラーが立ち塞がり、両腕のアイスラッガーでロツソとブルの2人を纏めて斬りつける。

『『ガアアア!!?!』』

それに怒ったロツソとブルは「邪魔するな!!」と言い放ち、2人は基本形態のフレイムとアクアに戻り、ロツソは十字に組んだ腕から炎のエネルギーを集約した破壊光弾を

発射する「フレイムスファイアシュート」を発射。

同時にブルは腕をL字に組み、水のパワーを宿したエネルギー光線を放つ「アクアストリウム」を発射し、

それらの光線を途中で収束させて放つ合体光線「フレイムアクア・ハイブリッドシュート」をダークキラーに繰り出す。

『フレイム!!』

『アクア!!』

『ハイブリットシュート!!!』

しかし、それらをダークキラーは両腕を交差して受け止め……そのままイストラッガーでX字に切り裂いてしまう。

『そんな……嘘だろ!?!』

それによりこの技すらダークキラーに効かないのかと驚愕するブル。

すかさずダークキラーは一気にロツソとブルの元まで詰め寄り、2人の首を掴みあげて2人のダークネスを生み出す為に光のエネルギーを奪い取る。

『うがああああ!!!?』

「春木さん達が……!!」

「どうしよう……!!」

東郷や友奈もこの状況で自分達がどうすれば良いのか分からず、困惑。

『余所見とは、随分余裕だな?』

その隙を突き、ダークデイアスは右腕のダークデイアスブレスにエネルギーをチャージした後、腕をL字に組んで放つ「ダークデイメンションバースト」を発射。

「っっ!!」

それに反応の遅れた東郷と友奈はダークデイアスの光線を喰らい吹き飛ばされてしまふ。

「きゃああああ!!!」

『それでも神に選ばれた者達か? だとしたら随分とご立派だな。 あっご立派ご立派

!』

友奈、東郷を挑発するように拍手するダークデイアス。

そして友奈と東郷の2人が吹き飛ばされ、倒れ込んだところを黒奈とダークデイアスは素早く詰め寄り、黒奈とダークデイアスは2人の頭を掴んで彼女等から勇者の力を吸収し始め、ダークネス達を作り出そうとする。

「うううう……ああ……!!」

*

同じ頃、「魔法空間」と呼ばれる場所で上空に映したモニターからあの青いオーラの巨人がニューージェネレーションとダークネス達の戦いの様子を観察していた。

そんな彼の元に、1人のウルトラマンが現れる。

『隠れん坊はもう終わりだぞ？ 『ウルトラマントレギア』!!』

そこに現れたのは「ウルトラマンリブット」であり、青き仮面の巨人、「ウルトラマントレギア」はリブットに向かって振り返る。

『あくあ、見つかつちやつたか』

『ギャラクシーレスキューフォースの情報網を舐めるなよ』

『私の素性もご存じ……っつと。それで？ 私をどうするのか？』

トレギアは両腕を広げながらリブットにそう尋ねると、リブットは「決まっている!!」と応える。

『お前を捕まえ、この宇宙を救済する!! ギャラクシーレスキューフォース、ウルトラマ

ンリブット!! 出動!!』

リブットはそう言い放つとファイティングポーズを取りながらトレギアに向かって駈け出し、ジャンプして跳び蹴りを放つ。

それをトレギアはひらりと躲すが、直後にリブットは後ろ回し蹴りをトレギアに繰り出して来る。

『おつと! 足癖が悪いねえ〜』

咄嗟に後ろに下がって攻撃を回避するトレギアだが、リブットは素早くトレギアに接近し、トレギアの胸部に拳を叩き込む。

『くっ!? ハア!!』

負けじとトレギアも右手を突き出して自身の爪でリブットを突こうとするがリブットはトレギアの右手を掴みあげる。

しかし、すぐさまトレギアはリブットの腹部に膝蹴りを叩き込み、リブットを自分から引き離す。

トレギアは自分から離れたリブットに向かって目から撃ち出す破壊光線「オプトダクリス」を発射。

『リブットロッド!!』

しかし、それをリブットは棒状の武器「リブットロッド」を出現させて弾きながらト

レギアに駆け出し、リブットロッドをトレギアに振りかざす。

『シエア!!』

『ファン!!』

トレギアはリブットが振るって来たロッドを両腕で交差して受け止め、2人は激しく激突する。

EPISODE 3 『反撃の時』

オーブダークネスはダークネスカリバーを振るって巨大な竜巻を発生させ、敵を上空へと巻き上げる。「ダークネスウインドカリバー」をオーブに向かつて放ち、オーブはビクトリーと「ウルトラマンガイア」という2人の巨人の力を使った「フォトンビクトリウム」に姿を変え、その巨大な両腕で地面を殴り、巨大な岩で出来た壁を作り出し、オーブダークネスの技を防ぐ。

『こっちの技は全て習得済みって訳か!! 上等だ!!』

イーヴィルティガとティガは同時に空中にジャンプし、イーヴィルティガはチョップ、ティガは跳び蹴りを繰り出し、互いに空中で交差して2人の技が激突する。

2人は地面に着地すると同時に振り返りざまにイーヴィルティガは右拳を突き出して放つ「イーヴィルビーム」、ティガは右手を突き出して放つ手裏剣状の光弾「ハンドスラッシュ」を放ち、2人の技はぶつかり合いどちらも相殺。

『はあ、はあ……ちよつと、キツくなつて来たかな……』

エックスは「時雨アーマー」という「駆逐艦 時雨」の力を宿したアーマーを纏い、両手に装備された主砲からエネルギーをチャージして放つ「バーストデストロイヤー」を

エックスダークネスに向かって放つ。

しかし、エックスダークネスは「古代怪獣 ゴモラ」の力が宿った「ダークネスゴモラアーマー」を装着し、両腕に装着された爪の武器でバーストデストロイヤーを弾き返す。

『デヤアア!!』

そのままエックスダークネスは左手の爪を振りかざし、エックスに斬りかかって来るが、エックスは後方に下がりながら主砲から砲弾を発射し攻撃。

『まさか、時雨とゴモラの力がぶつかり合う羽目になるとはな……』

「でも、向こうは偽者だ!!」

時雨は深海時雨の肩を踏み台にして彼女の背後に回り込み、主砲を構えて砲弾を撃ち込んで行くが……。

『サイバーベムスター、ロードします』

深海時雨は「サイバーベムスター」の力を使い、振り返りざまに自身の前方にサイバーベムスターの腹部を模したシールドが出現し、吸収、砲弾を跳ね返す。

それをなんとか時雨はジャンプして躲し、再び主砲を構える。

『ファイヤーリーダー!!』

『これならどうだ!!』

「ウルトラマンメビウス」というウルトラマンと、「宇宙警備隊長ゾフィー」の力を融合させた姿「ファイヤーリーダー」になったジードは右手から炎、左手から氷の弾丸をジード・ダークネスへと放つ。

それにジード・ダークネスは黒い爪形の武器、「ダークネスクロー」を振るい、炎と氷の弾丸を弾きながら接近。

目の前ほどにまで来るとダークネスクローを振るってジードを斬りつけるが、ジードも同時に炎の弾丸を右手から放ち、ジード・ダークネスを攻撃する。

ダイナとテラノイドは同時に足を突き出して互いの腹部を蹴りつけるが………僅かにテラノイドの方がダイナよりも少し大きく、バランスを崩し、倒れそうになる。

その隙を見逃さず、ダイナはテラノイドに殴りかかるが………倒れるのを耐えたテラノイドはダイナの拳を掴んで投げ飛ばす。

『おわあ?!?! この!! 絶対に、負けないから!! 私だって………!!』

*

ルギエルはダークスパークランスをギンガに向かって縦に振るい、ギンガはギンガスパークランスでそれを受け止め、ルギエルの腹部を蹴りつける。

『貴様等を倒し、今度こそ全ての命を止めてやる!!』

『絶対にさせねえよそんなこと!! 何度だって俺達が止めて見せる!』

ギンガとルギエルの2人が同時にそう言い放つと2人は同時にスパークランスを振るい、互いを斬りつける。

『グウウウ!!!』

ビクトリーはシエパードンセイバーでエタルガーを斬りつけ、僅かに怯むがすぐさまエタルガーはビクトリーに蹴りを放って反撃。

『くっ、ツェア!!』

さらに拳を放って来たエタルガーの攻撃をしゃがみ込んで回避し、それと同時にエタルガーの腹部にシエパードンセイバーを押し当ててそのまま斬りつける。

『チッ!』

またフィーネはクリスの放ったミサイルを鞭で絡め取り、そのままジャイアントスイングをしてミサイルをクリスに投げ返し、彼女はそれを跳び上がって回避しつつクロスボウに変形させたアームドギアを構えて矢を放つ。

しかし、フィーネはそれらを鞭で振るって弾いて防ぐ。

「クソ、やっぱ当たたらねえ……!!」

「これなら……どうデス!!?」

鎌のアームドギアをもう一つ増やし、二つの鎌をクロスさせて、鎖のついた手裏剣に変化させ投擲を行う「凶鎖・スタァ魔忍イイ」をフィーネに切歌は繰り出すが……：フィーネはそれすら鞭を振るって手裏剣を切り裂き、攻撃をまたもや防いで見せたのだ。

「切断力ある鞭ってどんなのデスか!?!」

*

『どんなに抗おうと、闇には勝てん！ お前達は自分から生まれた闇の力に倒されるのだ！』

『終わりだ!! ウルトラマン共!! そして、奴等と共に戦う貴様等も!!』

ダークキラーとダークディアスはそう言い放ち、やがてギンガ、ビクトリー、エツクス、オーブ、ジード、ロツソ、ブル、ゼロ、グリージョ、クリス、切歌、時雨、ティガ、ダイナ、友奈、東郷の全員は徐々に押され始め……敗北寸前と言ったところまで追い詰められて行く。

またゼロとグリージョはゼロダークネスに殴り飛ばされ、膝を突く2人。

『……はあ、はあ……。ゼロさん、もしかしてずっと私にエネルギーを……?』

グリージョはゼロの様子を見て自分よりもエネルギーの消耗が明らかに激しいことに気付き、それに対してゼロは「ああ。だが、それもそろそろ限界かもな」と返す。

*

挿入歌「GO AHEAD〜すすめ!ウルトラマンゼロ〜」

『……ゼロさん!! あなたは俺に、親子の絆を覚えてくれた!!』

『ウルトラセブン! ウルトラマンゼロ! フュージョンアップ! エメリウムスラッガー!!』

『エメリウムスラッガー!!』

倒れ込んでいたオーブはそう言いながら立ち上がるとゼロと、彼の父親「ウルトラセブン」の力を融合させた「エメリウムスラッガー」に変わる。

「ゼロの力は、時空を超えて……」

『私達を繋ぐ!!』

『ウルティメイトゼロ、ロードします。ウルティメイトゼロアーマー、アクティブ!』

『ウルトラマンゼロアーマー!!』

今度は夜空とエックスがそう言い放ちながらエックスが立ち上がると、エックスは銀色の鎧に右腕に剣「ウルティメイトゼロソード」を装備した「ウルトラマンゼロアーマー」を装着。

『ゼロがいたから、僕は運命を変えることが出来たんだ!! はああ、はあ!!
ジイイイイイード!!!』

次にジードが立ち上がると「ウルトラの父」というウルトラマンとゼロの力を使った形態、「マグニフィセント」へと変わる。

『フュージョンライズ！ ウルトラマンゼロ！ ウルトラの父！ ウルトラマンジード！ マグニファイセント!!』

『マグニファイセント!!』

そしてギンガとビクトリーが立ち上がり……。

『ゼロに教わった勇氣と!!』

『諦めない心で!!』

『俺達は、お前達を倒す!!!』

『ウルトラタッチ!!』

ギンガとビクトリーがそう叫ぶとギンガ、ビクトリーが融合し、誕生する戦士……

2人は「ウルトラマンギンガビクトリー」に変身。

『ギンガビクトリー!!!』

挿入歌「ハナコトバ」

また同じように、倒れていたクリスと切歌もフラつきながらも立ち上がり……。

「パパとママの代わりにあたしは歌で平和を挿んでみせる。あたしの歌は……

そのために!! だから、こんなところで、くすぶつてる場合じゃねえんだよ!!」

「ママが遺してくれた世界の為にも!! 格好悪いまま決して終わらない、終わらせない

デス!!」

クリスと切歌がそう叫ぶと2人のシンフォギアのアーマー部分が殆ど無くなり、クリスのアームドギアの形状は大ぶりな弓に変わり、切歌のアームドギアはいくつもの刃が連なつてできた鎌に変形し、2人の胸部にはX印の花のようなものが装着された姿「アマルガムギア」に変わる。

「アマルガムギア!!!」

また別の場所で時雨も立ち上がり、ジオデバイザーにサイバーゴモラのカードを装填する。

「止まない雨はないんだ。 だから!! ゴモラ、行くよ! 僕達のユナイトだ!!」

『サイバーゴモラ、ロードします』

時雨の姿は服が黒から青いものに変化しており、両肩から飛び出すように2門の主砲が装着され、両腕にはサイバーゴモラの腕型の武器が装備されており、髪に青いメッシュが入り、時雨の瞳の色も黄色くなった姿、「ゴモラフュージョン」へと変わったのだ。

『サイバーゴモラフュージョン、アクティブ!』

「サイバーゴモラフュージョン!!」

続けて、立ち上がったティガ……穂乃果も。

『μ sのみんなも、どうか……みんなも力を貸して!! μ s!! ミュージツ

ク、スタート!!』

ティガは両腕を額の前で交差して振り下ろすと赤い姿、「パワータイプ」にチェンジ。
『パワータイプ!!』

さらにダイナ、千歌も……………。

『あなた達に、光を……………輝きを奪わせたりしない!! 例え勝ち目が0でも、それを1にして……………1からその先にみんなで行って見せる!! A q u o u r s !! サンシャイン!!!』

ダイナは両腕を胸の前で交差し、腕を広げるとダイナは青い姿、「ミラクルタイプ」にチェンジ。

『ミラクルタイプ!!』

そして、東郷と友奈も立ち上がり……………。

「あなた達に見せてあげる!! 人間の、気合と、根性!! 『たましい』ってやつを!!」

「嫌なんだ、誰かが傷つくこと、辛い思いをすることが!! だから、私が……………私達が!!」

「頑張る!!」

東郷と友奈がそう言い放つと、2人の勇者服が白に近い配色になり、東郷は複数の主砲が装備された空中戦艦のようなものになり、友奈の左右に巨大な拳のようなものが出現し、2人は「満開」と呼ばれる姿に変わる。

「満開!!!」

『私だつて……!!』

そう言いながら立ち上がったグリージョは殴りかかって来たゼロダークネスの攻撃をしゃがみ込んで回避し、ゼロダークネスの腹部に頭突きを喰らわせる。

『とりや!! ほりゃ〜!!』

それによつて身体がくの字に曲がったゼロダークネスに対し、グリージョは勢いよく頭を上げてゼロダークネスの顎にも頭突きを喰らわせ、怯ませる。

『ダアア!!』

グリージョからの攻撃を受けたが、ゼロダークネスはすぐに蹴りをグリージョに放つて反撃。

それでもグリージョはなんとか痛みを耐え、腕を振るつてゼロダークネスに攻撃を仕掛け、ゼロダークネスは咄嗟に後方へと下がる。

『決して絆を諦めない、私だつて、ウルトラマンです!!』

グリージョはそう言い放つと全身に光を溜め、その光のエネルギーを広範囲に放ち、それによつてゼロダークネスとダークキラ、ダークディアス、黒奈は吹き飛ばされ、さらにはダークキラゾーンにあった闇を振り払い、ロツソ、ブルのエネルギーも回復させる。

『バカな、俺達の闇の力が．．．弱まっただと!?』
『おのれ．．．!!』

そのグリージョの技はダークキラーやダークディアスの闇の力も弱まらせ、それによつてそれぞれのダークネス達の力も徐々に弱まっていく。

そしてその技を使ったグリージョは膝を突き、ゼロが「大丈夫か!？」と心配して彼女に駆け寄る。

『ですが、これで．．．!! 春にい、良にい!! 友奈さん!! 東郷さん!!』
グリージョに呼びかけにロツソとブル、友奈と東郷は「ああ!!」「うん!!」と力強く頷く。

『散々俺達の妹を可愛がってくれたようだな!!』

『妹を守り続けてくれたゼロさんに代わって、ここからは俺達の反撃だ!!』

『行くよ! 勇者部六箇条成せば大抵．．．!!』

『なんとかなる!!』

挿入歌「Hands」

『兄弟の力を一つに!』

『纏うは極!! 金色の宇宙!!』

ロツソとブルがそう言い放つと2人は眩い光に包まれ、1人の金色の巨人．．．

「ウルトラマンループ」に融合。

ゼロダークネス、ダークキラークの2体は並び立ち、ループに向かって駈け出して行く。
『ゼアアア!!』

最初にゼロダークネスは右足に炎を纏った跳び蹴り、「ダークネスゼロキック」を繰り出す。ループはそれを片手で受け止めるとそのまま足を掴みあげ、ジャイアントスイングして投げ飛ばす。

『シユア!!』

続いて背後から右腕のアイスラッガーで斬りかかってきたダークキラークも振り返りざまに攻撃を受け止め、押し返して逆にダークキラークの顔面を殴りつける。

『うぐお!!』

ダークキラークとゼロダークネスは一度ループから距離を取り、ゼロダークネスは左腕を伸ばした後、両腕をし字に組んで放つ「ダークネスゼロショット」を発射。

同時にダークキラークは怨念エネルギーの光弾「ダーククラスト」を放つ。

『ニュージェネレーションバリア!!!』

しかし、ループの周囲にギンガ、ビクトリー、エックス、オーブオリジン、ジード・プリミティブの幻影が出現し、5人のウルトラマンが同時に必殺光線を発射してダークキラークとゼロダークネスの光線を押し返し、そのまま5大ウルトラマンの光線はダークキ

ラー達に直撃し大ダメージを与える。

『ウグオオオオ!!!?』

『やるじゃねえか! お前達兄妹ウルトラマンの絆、俺の師匠にも負けてないぜ?』

挿入歌「FOLLOW TOMORROW ME」

一方、友奈と東郷は……。

満開した友奈はその装備した巨大な拳で黒奈に殴りかかり、黒奈もまた闇のエネルギーを纏った拳で「勇者パンチ」を繰り出す。

「勇者……パンチ……!!」

しかし、パワーは圧倒的に友奈の方が上であり、黒奈は力負けして殴り飛ばされてしまふ。

「うぐあああ?!」

「もう、やめようよ! 私から生まれたなら、あなたも勇者じゃないの? だったら……!!」

「笑わせないでよ、私はあくまで勇者の力をコピーした存在に過ぎない。戦うために生まれた存在!! だから、最後まで私と戦って貰うから!!」

黒奈はそう言うとは友奈に向かって駆け出し、友奈は巨大な拳を放つが黒奈はそれを地面をスライディングすることで躲し、本体である友奈自身に攻撃を仕掛ける。

しかし、それを友奈は両腕を交差して攻撃を防ぎ、足を振り上げて反撃するが黒奈は即座に後ろに下がって躲す。

「もう1度……勇者、パンチ!!!」

今度は先ほどよりも気合いの入れた勇者パンチを繰り出し、友奈も同じく、装備された巨大な拳で繰り出す強化された「勇者パンチ」を繰り出す。

「勇者あ!! パンチ!!!」

2人の拳が激突し合うが……黒奈はあっさりとパワー負けし、大きく吹き飛ばされて近くにあった岩に激突し、倒れ込むのだった。

「ぐうう……くっ……クソ……!!」

挿入歌「エガオノキミへ」

また東郷は戦艦から地上にいるダークディアスに向かって砲撃を開始し、ダークディアスは両手を広げて張り巡らせる「ダークディアスバリア」を展開し、攻撃を防ぐが……連続して放たれる砲撃の威力に耐えきれず、吹き飛ばされる。

『ぐあああ!!!』

地面を転がるダークディアスは流石に部が悪いと感じたのか、もう手加減をする必要はないと感じ、巨大化しようとするが……そうはさせまいと遠隔誘導攻撃端末を使い、弾丸を撃ち込み、ダークディアスはなんとか攻撃を避ける。

『ぐつ、邪魔をするな!!』

ダークディアスは遠隔誘導攻撃端末の攻撃を避け続けていると、次の瞬間……目の前に東郷が乗っていた戦艦が砲門にエネルギーを収束させたまま特攻して来ていることに気付き、ダークディアスは判断が遅れ……。そのまま戦艦の突撃を喰らうことに。

『ぐああああ!!!?』

尚、東郷はとづくに戦艦から離脱していた。

「まんまと、誘導されたわね」

*

挿入歌「オーブの祈り」

『デヤアアア!!!』

オーブダークネスはダークネスカリバーをオーブに振りかざして来るが、オーブは頭に装着されたブーメラン型の武器「アイスラッガー」を手にとってそれを受け止め、押

し返すと同時に素早くオーブダークネスの腹部を横一閃にアイスラッガーで斬りつける。

『シエアア!!』

『グオツ!!』

オーブダークネスはダークネスカリバーで円を描くことで巨大な火の輪を生み出し、それが回転してできる火の玉を放ち相手を拘束する「ダークネスフレイムカリバー」を放つがオーブは頭部にあるさらに2本のブーメラン「オーブスラッガー」とアイスラッガーを念力で自在に操る「超ウルトラノック戦法」を繰り出す。

『超ウルトラノック戦法だ!!』

それによってオーブダークネスの炎を切り裂き、そのまま3つのスラッガーはオーブダークネスの身体を斬りつける。

『グウウ!!』

『シユア!!』

スラッガーを頭部に戻すとそこからさらにオーブの跳び蹴りが繰り出され、オーブダークネスはダークネスカリバーで防ぐものの大きく後退ってしまう。

『ウオオオ!!』

それでもオーブダークネスはダークネスカリバーを振るってオーブに斬りかかって

来るが、オーブは再び手にアイスラッガーを手に取り、ダークネスカリバーによる攻撃をするりと身体を右に捻って躲し、オーブダークネスの懐に入るとダークネスカリバーを握る右手を斬りつけ、ダークネスカリバーを落とさせる。

『グウウ!!?』

『デヤアアア!!!』

さらにそこから連続でアイスラッガーでオーブダークネスをオーブは斬りつけ、最後に後ろ回し蹴りを喰らわせて蹴り飛ばす。

そしてアイスラッガーを頭部に戻すと一度腕をL字に組んだ後、右腕を真横に伸ばしながらエネルギーをチャージして腕を十字に組んで放つエメリウムスラッガー最大の光線である「E S スペシウム」をオーブダークネスに向かって発射。

『E S スペシウム!!!』

『グウウウ………グオオオオ!!!?』

直撃を受けたオーブダークネスは耐えきれず、オーブの技の前に爆発し、オーブはオーブダークネスを打ち倒したのだった。

挿入歌「閃光Resolution」

ティガ・パワータイプはイーヴィルティガの放つストレートキックを正面から受け止め、足を掴みあげると一度大きく持ち上げてそのまま地面に叩きつける。

『グオオ!!?』

そのままティガはイーヴイルティガの足を掴んだまま遠くへと投げ飛ばす。

『チャア!!』

『グウウ!!?』

それによつて岩山に激突し、倒れ込むイーヴイルティガ。

ティガはイーヴイルティガに追撃するために駆け出し、倒れ込んだイーヴイルティガに拳を振るうがイーヴイルティガは身体を転がすことで攻撃を回避。

立ち上がったイーヴイルティガは拳を前に突き出し、光弾「イーヴイルビーム」を发射するが……ティガはそれを腕を振るつて弾き飛ばす。

『っ!?!』

それに驚きつつ、イーヴイルティガは両手を引いてから大きく広げてエネルギーを集約し、狭めながら交差させて両手を逆L字に組んで発射する「イーヴイルショット」を発射。

それと同時にティガは両腕を左右から上にあげ、胸の前に高密度に集めた超高熱の光エネルギー粒子を集め、L字型に手を組んで発射する「ゼペリオン光線」を発射。

2人の光線は激しく激突し合う。

『グウウウ……ファイトだあ!! 私い!!!』

『ウグオオオオ!!!?』

今よりもさらに気合いを入れたティガは一気にイーヴィルティガの光線を押し返し、ゼペリオン光線がイーヴィルティガに直撃し、イーヴィルティガは火花を散らして吹き飛ばされ、地面に激突するとそのまま粒子となつて消滅するのだった。

挿入歌「ウルトラマンX」

『ダアアア!!!』

エックススダークネスはダークネスゴモラアーマーの両手の爪を振りかざし、エックスに攻撃してくるがエックスは右手に装備されたウルティメイトゼロソードで受け止め、左拳をエックススダークネスの腹部に叩き込む。

『グウウ!?!』

『シエア!!』

それによつて後退るエックススダークネスにエックスは素早くすれ違いざまにゼロソードでエックススダークネスを斬りつけ、エックススダークネスは即座に反撃しようとしてエックスの方に振り返るが………。

それと同時にエックスの振るつたゼロソードによつてエックススダークネスは縦一線に斬りつけられ、ダークネスゴモラアーマーも破壊されてしまう。

『イイイイサア!!』

さらにアーマーが破壊されたエックスダークネスの腹部にエックスは蹴りを叩き込んでから距離を取るとエックスはゼロアーマーを變形させて巨大な弓状の「ファイナルウルティメイトゼロモード」にするとそれをそのまま撃ち出す「ファイナルウルティメイトゼロ」を発射。

「ファイナルウルティメイトゼロ!!」

『グアアアア!!』

その直撃を受けたエックスダークネスは直撃と同時に爆発し、完全に倒されたのだつた。

挿入歌「佐久保の時雨」

両手に装備されたゴモラアーマー等と同じ形をした爪の武器、「ゴモラクロー」を盾にしながら時雨は深海時雨の放つ砲撃を防ぎながら接近。

「たあああ!!」

時雨はそのまま一気に深海時雨に近づくとそのままタツクルを繰り出す。

「っ!?!」

『サイバーエレキング、ロードします』

「エレキング電撃波!!」

深海時雨はデバイザーにサイバーカードを装填し、両手に持つ主砲から放つ電撃光線

「エレキング電撃波」を時雨に放つ。

「効かないよ!!」

しかし、時雨はゴモラクローを振るって電撃光線を弾き飛ばし、両肩の主砲にエネルギーをチャージして放つ。「バーストデストロイヤー」を放つ。

「バーストデストロイヤー!」

「くああっ!?!」

直撃こそしなかったが、深海時雨の足下が爆発し、彼女は空中に投げ出される。

「今だ!!」

それを見て時雨も空中に跳び上がり、真つ直ぐ深海時雨に向かって行き、両手のゴモラクローにエネルギーをチャージし、それを近づいた相手に向かって一気に放出する。「ゴモラ震動波」を繰り出す。

「ゴモラ震動波?!!」

「うあああああ!!!!」

それによって、深海時雨は地面に叩きこまれ、彼女は気を失うのだった。

挿入歌「GEEDの証」

『ダアアア!!!』

ジードダークネスはジードに向かって跳び蹴りを放つが、頭部の角から放つムチ状の

電撃「メガエレクトリックホーン」でジードダークネスを弾き飛ばす。

『メガエレクトリックホーン!!』

『ヌアア!!?』

地面を転がりながらもジードダークネスは両手を胸の前で合わせ、紫色の鋭い切断光線を放つ「レッキングダークネスリップパー」を咄嗟に放つがジードはそれを跳び上がったて躲し、そのまま急降下キックを立ち上がったジードダークネスに喰らわせる。

『ウグオ!!?』

『ジードクロー!!』

二又のかぎ爪型の武器「ジードクロー」をジードは出現させるとそれを使い、ジードはジードダークネスを何度も斬りつけ、最後にジードクローでジードダークネスを殴りつけ、吹き飛ばす。

『ダアア!!?』

ジードはジードクローを仕舞うと拳を合わせエネルギーをスパークさせた後、腕をL字に組んで放つ光線「ビッグバスタウエイ」を発射。

『ハアアア、ビッグバスタウエイ!!!』

『グウウウウ……ウアアアアア!!!』

ジードの光線を受け、ジードダークネスは耐えきれず、断末魔を上げながら爆発する

のだった。

挿入歌「コカルテ」

『ショア!!』

ダイナは跳び蹴りをテラノイドに繰り出し、テラノイドはそれを両腕を交差して防ぐ。

『シユア!!』

テラノイドは一度ダイナから距離を取ると両腕を十時に組んで放つ「ソルジエント光線」を放つ。

だがダイナはそれをバク宙することで回避し、テラノイドはもう一度ソルジエント光線をダイナに向かって放つがダイナは3人に分身する「ウルトラマジック」を使い、光線を躲してテラノイドを3方向から囲む。

『っ!?!』

それにテラノイドが戸惑っている間にダイナの1人がテラノイドを蹴りつけ、もう1人は拳をテラノイドの胸部に叩き込み、最後の1人はチョップを叩きこむ。

『ウオツ．．．!?!』

1人に戻ったダイナは空間を右手の中に圧縮して超衝撃波を作り出して放ち、敵の背後に人工のブラックホールを発生させて吸い込み次元の隙間に送り込み圧殺して破裂

させる必殺技「レボリウムウェーブ・アタックバージョン」を放つ。

『これでも、喰らえ!!』

『ヌアア、ウアアアア!!』

それを受け、テラノイドは後ろのブラックホールに吸い込まれるように消え去り、ダイナはテラノイドに勝利したのだった。

挿入歌「ウルトラマンビクトリー／ウルトラマンギンガの歌」

ギンガビクトリーは殴りかかって来たエタルガーの右拳を左手で受け止めて掴みあげるとエタルガーの脇腹に自身の右拳を何度もエタルガーに叩き込む。

『シヨウウラ!!』

『ぐおおお!!?』

そこへ背後からダーククルギエルがジャンプしてダークスパークランスを振り下ろして来るが、ギンガビクトリーはエタルガーの顔面を殴って吹き飛ばすと振り返りざまに両腕でエネルギーを集め、三日月型の破壊光刃を発射する必殺光線「エクリプスブレード」を放つ。

『ウルトラマンコスモスの力よ!! エクリプスブレード!!』

『ぬああ!!?』

なんとかダークスパークランスで直撃こそ防いだものの反動でルギエルはその場に

落下し、膝を突いてしまう。

『おのれ……おのれええええ!!!』

立ち上がったルギエルはエタルガーと共に同時にギンガビクトリーに向かって駆け出し、攻撃を仕掛けるがギンガビクトリーは空中に飛び立ち、そこから胸部からY字型の強力な必殺光線……「コアインパルス」を発射。

『ウルトラマンネクサスの力よ!! コアインパルス!!』

『うおおお!!!』

コアインパルスの直撃を受けたルギエルとエタルガーはその場に倒れ込み、ギンガビクトリーは地上に降りるとすかさず追撃しようとルギエルとエタルガーの2人に向かって駆け出す。

それに対してルギエルとエタルガーも立ち上がり、2体は再びギンガビクトリーに向かってエネルギー弾を撃ち込みながら走り出し、それに対してギンガビクトリーは三日月型の剣「ゼロツインソード」を出現させる。

『ウルトラマンゼロの力よ!!』

ギンガビクトリーはツインソードでエネルギー弾を切り裂きながら突き進み、やがてルギエルとエタルガーの目の前にまで迫ると2体にツインソードを押しつけ、刃にエネルギーを込めて敵を切り裂く「プラズマスパーククラッシュ」を繰り返す。

『これが受け継がれていく絆の力!! ウルトラマンの力だ!! プラズマスパークク
ラッシュ!!!』

『ば、バカな!?!』

『この力は……?!?!』

それによつて横一閃にルギエルとエタルガーは切り裂かれ、2体は火花を散らしなが
ら爆発するのだった。

『ぐああああああ!!!?!』

挿入歌「アカツキノソラ」

フィーネは自分に振りかざして来た「歌」を口ずさむ切歌の鎌型のアームドギアに鞭
を振るつて絡みつかせ、武器を奪い取ろうとするが……。

「ぐっ、意地でも離してやるもんかデス!!」

切歌は意地でもアームドギアを手放そうとせず、さらにクリスがフィーネに向かって
幾つもの矢を連射。

「くっ!!」

フィーネはそれによつて注意が逸れ、なんとか躲そうとするが……切歌はそ
のフィーネの一瞬の隙を見逃さず、彼女は力尽くでアームドギアを引っ張るとフィーネ
はそれに引き寄せられ、彼女はジャイアントスイングしながらフィーネをアームドギア

ごと壁に向かって放り投げる。

「ぐああ!!」

その衝撃によって鞭の絡みも解けてアームドギアも弾き飛び、切歌は弾き飛んだ自分のアームドギアをジャンプして掴み取るとそのままフィーネに向かって振り下ろす。

フィーネは鞭を構えてその攻撃を防ぐのだが……鞭はあっさりと切り裂かれ、フィーネの鎧ごと切り裂いたのだ。

「なんだとお!!」

その衝撃によって吹き飛ばされ、後ろに待ち構えていたクリスが、切歌と入れ替わるように「歌」を口ずさみながら巨大な弓矢で勢いよく突き出し、弓矢でフィーネを殴り飛ばす。

「弓矢で……!!」

挿入歌「SONG FOR THE WORLD」

フィーネは鎧を再生させ、なんとか体勢を整えて地面に着地するとすぐさま今度はクリスに攻撃を仕掛けようと素早く彼女に殴りかかるが……クリスはギリギリまで動かないでフィーネを引きつけ、素早く彼女はフィーネの頭上を飛び越えると逆さに落下しながらも強力な矢を連射して発射。

「ぬああああ!!!」

「おい!!」

「了解デス!!」

クリスの呼びかけに応え、クリスは両腕を広げると切歌は彼女の肩を踏み台にしてジャンプし、ドロップキックを繰り出す。

それをフィーネは残ったもう片方の鞭を振るって切歌に攻撃しようとするが……クリスの放つ矢に弾かれ、そのまま切歌のドロップキックを喰らってしまう。

「がは!! バカな……なぜ、なぜここまで私が追い詰められる!!」

「まつ、本物じえねえってのもあるんだろうけど……多分、お前じゃ一生分かねえだろうよ!!」

そう言い放ちながらクリスはフィーネに向かって駆け出し、その巨大な弓矢を使って膝を突いているフィーネを思いつきり殴りつけ……大きく殴り飛ばし、フィーネは壁に激突し、そのまま倒れ込み、気を失うのだった。

「がはあああああ!!!?!!」

*

挿入歌「キボウノツボミ」

『デヤアアアア!!!』

ゼロダークネスは右足に炎を纏わせて相手に跳び蹴りを放つ「ダークネスゼロキック」をループに繰り返すが、6枚刃を展開した丸のこのような武器「ループコウリン」を出現させたループはゼロダークネスの攻撃を躲し、すれ違いざまにループコウリンでゼロダークネスを切り裂く。

『又オオ!!?!』

さらにすかさずループはループコウリンでゼロダークネスの背中を切り裂き、そこへ今度は巨大化に成功したダークディアスが蹴りを放ってくるがループはそれを後方にジャンプして回避。

すると今度は両腕のアイスラッガーを飛ばして敵を切り刻む「デススラッガー」をダークキラーが繰り返して来たがそれは東郷の放った狙撃銃による弾丸で弾かれ、ループはその間に一気にダークキラーに詰め寄ってループコウリンでダークキラーを斬りつける。

『ぐはあああ!!!』

『ハアアア!!』

さらにループは後ろ回し蹴りをダークキララーに喰らわせ、ゼロダークネスに視線を映すとループコウリンから7色の光の回転カッターを放つ「ループコウリンシヨット」をゼロダークネスに繰り出す。

『ループ!! コウリンシヨット!!』

ゼロダークネスは頭部の2本のスラッガーを構えて交差して攻撃を防ごうとするが……スラッガーごとゼロダークネスは真つ二つに切り裂かれ、爆発。

『ウグアアアア!!?!』

『貴様あ!!』

ゼロダークネスをも倒され、逆上したダークディアスは「ダークディアスブレード」を構えてループに向かって振りかざすが……。

「たあああああ!!?!」

そこに友奈が巨大な拳を使い、ダークディアスの顔を殴りつけ……ダークディアスは軽く吹き飛ばされ、そのままループはループコウリンから7色の破壊エネルギーを発射する「ループボルテックバスター」をダークディアスに撃ち込む。

『ループ!! ボルテックバスター!!』

『うぐあああああ!!?!』

そのままダークディアスはダークキラークを巻き込んで吹き飛ばされ、巨大な岩山に激突。

『ぐはっ…………おのれ…………!!』

『お前等あ…………!!』

『トドメだ!!』

春木、良の2人がそう叫ぶとループの肩に友奈と東郷は乗り、2人はループの肩に手を置いて勇者の力をループに分け、その後素早く離れる。

「後はお願ひしますね、2人とも!!」

「根性だよ、2人とも!!」

『おうよ!! ブレイバールービウム光線!!!!!!』

ループは友奈と東郷の言葉に頷くと両腕にエネルギーを集中させ、十字に組んでそこから黄金の破壊光線を放つ。「ルービウム光線」を勇者の力によってさらに強化した超必殺光線「ブレイバールービウム光線」をダークディアスとダークキラークに向かって放ち、2体は直撃を受けて爆発するのだった。

『うぐあああ!!! うあああああ!!!?』

それにより、ダークディアスが倒された為、気を失っていた黒奈、フィーネ、深海時雨の3人も消滅し、ループはロツソとブルの2人に戻り、ダークキラークとダークディア

スを倒し終え、友奈と東郷を肩に乗せながら一同はゼロとグリーンジョの元に駆け寄る。

『ありがとうございます、ゼロさん!!』

『ヒナタのこと、守ってくれて感謝です!』

「ヒナタちゃん、無事で良かったよ」

「ホントね、友奈ちゃん……?」

ロツソ、ブル、友奈、東郷の4人はグリーンジョを守ってくれたゼロにお礼を述べ、グリーンジョが無事で良かったと安堵。

『お前等も、4人とも中々やるじゃねえか』

そこへゼロ達の元にダークネス達を倒し終え、基本形態に戻った他のニュージエネレーション達が駆けつけ、ギンガは「ゼロ!!」と声をかける。

『ゼロさん! 大丈夫ですか!』

『心配ねえよ。 ったく、お前等に心配されちゃうようじゃ、無敵のゼロ様も形無しだぜ? フフ、ありがとな?』

ゼロはそう言いながらギンガ達にお礼を述べるのだった。

E P I S O D E F I N A L 『ニュージエネレーション』

一方……リブットとトレギアは同時に互いの胸部を殴りつけ、トレギアは両手先から放つ破壊光線「トレリアルデイガ」を放つがリブットはそれを身体を回転させるようにしながら躲し、一気に詰め寄るとトレギアに拳を素早く繰り出す。

『おっと!!』

それをトレギアはバックステップで回避。

『フン……んっ? はあ、どうやらダークキラー達は負けたようだな。しかしリブットか……名前だけは覚えておこう』

そう呟くとトレギアは両腕を広げて全身から紫の光の柱のようなものを発生させ、それに驚くリブット。

『なんだ!?! なにをした!?!』

『フフ、第2ラウンドさ。楽しいイベントはまだまだ終わらない』

トレギアはリブットにそう言い残すと彼は背後に現れた魔法陣の中へと消えて行き、リブットはそれを追いかけてしようとするが……入れ替わるようにして現れた「ど

くろ怪獣 レッドキング」と「剛力怪獣 シルバゴン」が魔法陣から出現して阻み、トレギアはそのまま消えてしまった。

「ギシャアアアアア!!!」

シルバゴンとレッドキングの2体はリブットに襲いかかり、殴りかかって来たシルバゴンの腕を掴んで放り投げ、続けて背後から襲いかかって来たレッドキングも後ろ回し蹴りで蹴りつけて引き離す。

『シエア!!』

「グルアアアアア!!!」

立ち上がったシルバゴンはリブット目がけて突進を繰り出し、それをリブットはシルバゴンの頭上を飛び越えてシルバゴンの背後に回り込む。

そしてシルバゴンはそのままリブットの後ろに立っていたレッドキングに勢いよく激突し、2体は倒れ込む。

*

そしてその紫の光はゼロダークネス、ダークキラー、ダークキラーが倒された場所に降り注がれ……その3体が復活。

『『ウアアアアアアアア!!!』』

だが、ただ復活しただけではなく、ダークキラーの身体が鎧のように変化して分離し、それがダークディアスの足部、両腕、両肩、胸部に装着され、さらにダークディアスの顔がダークキラーに変化し……そこから通常の2倍ほどの大きさに変化した「合体暗黒超人 キラーディアス」に変貌したのだ。

『なんだ!!?』

「んだありや!? ダークディアスとダークキラーが合体しやがったのか!?!」

クリスもその予想外の事態に驚きの声をあげ、キラーディアスは両手から紫の光弾を空中に投げ、空中で分裂して雨のように敵に降り注ぐ「ネオダーククラスト」を放つ。

『うああああああ!!!』

それらを受け、辺りが爆発し、ダメージを受けるギンガ達。

『奴はお前等に任せろぜ。ゼロダークネスは俺が! 嫌な思い出もあるしな』

『なら、ゼロこれ!! 今度は僕達があなたを助ける番だ!! 皆さんもお願いします!!』
ジードがギンガ、ビクトリー、エックス、オーブに頼むと4人は頷き、ジードの能力で4人のウルトラマンの力が宿ったカプセル、「ウルトラカプセル」が出現。

それをゼロが取り込むと……ゼロは強化形態「ウルトラマンゼロビヨンド」にパワーアップ。

『ネオフュージョンライズ!!』

『俺に限界はねえ!!』

『ウルトラマンゼロビヨンド!』

それを受け、ゼロはジードに「お前、こんなことが出来たのか!？」と驚き、ジードは「レイジさんには内緒で?」と口元に一差し指を押し当てる。

『自分無しでビヨンドになれたって知ったらきつと拗ねるかもしれないし』

『あー、確かに拗ねそうだよねえ、レイジさん……』

『はは、かもな。でもあの厳つい顔で拗ねたところ、それはそれで見てみたい気もするけどな』

ゼロはゼロダークネスに視線を映し、ファイティングポーズを取る。

『俺達に限界はねえってな! ブラックホールが吹き荒れるぜ!!』

そのままゼロはゼロダークネスと戦闘を開始し、ゼロダークネスは向かって来たゼロに蹴りを放つがそれを腕で受け流し、逆に今度はゼロがゼロダークネスに蹴りを放つ。

『デヤアア!!』

それをバク転で躲すがすぐさまゼロは目の前にまでゼロダークネスに近寄り、ゼロの

繰り出したアッパーカットをゼロダークネスは受けてしまう。

『ウオツ!?!』

フラつくゼロダークネスにすかさずゼロは跳び蹴りを浴びせ、後退するゼロダークネス。

『まだまだ行くぜ!!』

*

『さあ、決着つけようぜ、ダークキラー!!』

「それに、ダークディアス!!」

ギンガとクリスがそう叫ぶとその時、1つの青い光が現れ……それはギンガとクリスを包み込むと2人の目の前にタロウと……もう1人、見慣れないウルトラマンが現れる。

『よくやったな、コウマ、クリス』

『タロウ!』

「それと……アンタは……ダークディアス!? いや、違う……」

タロウの隣に立つもう一人のウルトラマンは赤い身体に銀色のラインと胸部に金色のプロテクターをつけたダークディアスそっくりの巨人、「ウルトラマンディアス」だった。

『俺達は、ウルトラマンディアス』

『俺達?』

『そこは気にしなくて良い。 少々遅れてしまったようだが雪音 クリス、君に渡すものがある』

そう言うときディアスは右手をクリスに向かってかざし、そこから一筋の光が放たれ……クリスの右腕に当たるとその腕にはプレスレット型のアイテムが装着された。

「こいつは……?」

『ウルトラマンヒカリと共同で開発した、君たちニュージェネレーションヒーロインズの力を疑的にだが最大限まで解放するアイテム、『ニュージェネレーションプレス』だ』
名前だけ聞くとギンガなどにも使えそうだが……と考えるギンガだったが、今は追求している場合ではないので特に気にしないことにする。

『私からもギンガ、再び君に私の力の一部を託そう。 さあ、共にダークキラードークディアスを倒すぞ!』

『ああ!! ありがとなタロウ!!』

『ギンガに力を!! ギンガストリウム!!』

するとギンガの右腕に「ストリウムブレス」と呼ばれるアイテムが装着され、ギンガは「ウルトラマンギンガストリウム」という強化形態に変身。

「あたしも!!」

『解放せよ! 最大限の力!!』

クリスもニューージェネレーションブレスを掲げると、それが光輝き……彼女を白をメインカラーとし、機械的な翼の生えた「エクストライブモード」となる。

『解放せよ! 撃ち抜けイチイバルの力! エクストライブモード!!』

ギンガストリウムとエクストライブモードとなったクリスが光の中から出て来ると他のウルトラマン達も究極の姿にそれぞれ変わっていく。

挿入歌「UNLIMITED BEAT」

『放て! 聖なる力!!』

『トリニティフュージョン!!』

『ベータスパークソード!!』

『アルティメットエポリューション!!』

ビクトリーは青い剣、「ナイトティンバー」の力により青き姿「ウルトラマンビクト

リーナイト」に変わる。

エックスは「ベータスパークソード」という剣を持ち、エクシードXになると「ウルトラマンティガ」と「初代ウルトラマン」の力を使ったアーマー、「ベータスパークアーマー」を装着。

オーブはギンガ、ビクトリー、エックスの力を借りて「ウルトラマンオーブ オープトリニティ」に変化。

ジードは「ギガファイナライザー」と呼ばれる杖型の武器を使い、究極の姿である「ウルトラマンジード ウルティメイトファイナル」となる。

『お兄ちゃん達!! 私達も!!』

『ああ!!』

グリージョの言葉にロツソとブルは頷き、3人は互いが互いに手を繋ぎ合う。

『重ねろ! 3つの魂!!』

『『まとうは真!! 不滅の真理!!』』

そして3人が片腕を掲げると3人は眩い光に包まれ、1人のウルトラマン……
「ウルトラマンブルー」に変身。

さらにニュージェネレーションブレスの力によって切歌も自分の装着するギアが変化し、白をメインカラーにしたものに変化し、機械的な翼が生えたエクストライブモード

となる。

『解放せよ!! 切り刻めイガリマの力!! エクスドライブモード!!』

続けて時雨も一瞬姿がゴモラフュージョンになると左腕に装着されたゴモラクローが変化し、「EXゴモラ」の腹部を思わせる盾に変化し、さらに鋭い槍状のものが盾の先に装備され、右腕のゴモラクローがより鋭利なものに変化した「EXゴモラフュージョン」に変わる。

『怪獣と艦娘の究極のユナイト! EXゴモラフュージョン!!』

「もう一度行くよ、ゴモラ!!」

今度はティガの目の前にオーブカリバーに酷似したオレンジ色の剣、「ゼペリオンカリバー」が出現し、ティガはそれを掴み取るとティガの両肩に金色のプロテクターが追加され、身体の上半身に黒いラインが入った「ウルトラマンティガ エレメンタルタイプ」となる。

『新たな力! エレメンタルタイプ!!』

今度はダイナの目の前にジードクローに酷似したミカン色の爪型の武器、「ソルジェントクロー」が出現し、ダイナはそれを掴み取ると身体の色が金色をメインにしたカラーリングに変化し、さらに胸部のプロテクターも変化し、ジードのつり目を思わせるものとなった「ウルトラマンダイナ サンシャインタイプ」に。

『光輝け!! サンシャインタイプ!!』

また友奈は神々しい姿となり、髪は大きく伸びたロングヘアとり、かつて歴代の勇者や「巫女」と呼ばれる少女達が力を貸すこととなった形態「大満開友奈」に酷似した姿となり、その時との相違点として彼女の目がオッドアイではないという違いがある。

同時に東郷も同じく神々しい姿になり、髪を結った状態にした「大満開東郷」となったのだ。

『気合い、根性!! 大満開!!』

そしてギングガストリウム、ビクトリーナイト、エックス ベータスパークアーマー、オーブトリニティ、ジード ウルティメイトファイナル、グループ、クリス エクスドライブモード、切歌 エクスドライブモード、時雨 EXゴモラフュージョン、ティガ エレメンタルタイプ、ダイナ サンシャインタイプ、大満開友奈、大満開東郷の全員は並び立ち、キラードィアスに向かって行く。

『ウアアアアアア!!』

キラードィアスは雄叫びをあげながら両手を地面に向かってかざすとそこから光が溢れ、その光は人型になり、「ウルトラマンコスモス コロナモード」に酷似した青い巨人、「カオスウルトラマン」、紫の目をした死神のような姿の「闇の巨人 ダークメフィストドライブ」、ピエロを思わせる姿の「闇の巨人 ダークファウスト」という3体の闇の

巨人が出現。

『アイツ等は俺達に任せろ!!』

そこにいつの間にかいたディアスがカオスウルトラマン達に向かっ
ていき、ディアスの存在に気付いたキラードディアスは雄叫びのよ
うな声をあげながらディアスの名前を叫ぶ。

『ディアスウウウウウ!!!』

『どこ見てんだよ!!』

『ウルトラマンの力よ! スペシウム光線!!』

そんなキラードディアスにギンガは両腕を十時に組んで放つ「
スペシウム光線」を、クルスは背部に形成した固定式射出器に
大型ミサイルを左右に各1基、計2基を連装して生成し、射出する「
MEGA DEATH FUGA」を撃ち込んでこちらの注意を引き、
キラードディアスは忌々しげにギンガ達を睨み付ける。

「オメーはあたし等だけ見てろ!!」

*

一方でリブットはレッドキングとシルバゴンの攻撃を受け流しつつカウンター攻撃による拳を2体に叩き込み、レッドキングが尻尾を振るってリブットに攻撃してきたがリブットはそれを後方に下がって回避。

「ギシャアアアア!!!」

『シエア!!』

だが今度はシルバゴンがリブットに向かって突進し、掴みかかってきたがリブットは後ろ回し蹴りをシルバゴンの腹部に喰らわせ、押し返し、続けて迫って来たレッドキングも素早く勢いをつけたパンチをレッドキングの顔面に喰らわせて怯ませる。

「グルウウ!!?!」

そのままリブットは両腕を回すようにしてから光線を円盤状にして発射する青紫の丸鋸のような形状をした切断技「リモートカッター」をレッドキングとシルバゴンに炸裂させる。

『リモートカッター!!』

「ギシャアアア!!!」

それを受け、身体を切り裂かれたレッドキングは爆発したのだが……高い防

御力を誇るシルバゴンは切断されることはなく、一度倒れただけですぐに立ち上がった。リブットに襲いかかって来たのだ。

『くっ!!』

突進を繰り返して来るシルバゴンの攻撃を横に飛んで回避し、演武のような動きをしてから腕をL字に組んで放つ必殺光線「ギャラクシウムブラスター」を発射。

『ギャラクシウムブラスター!!』

「グルアアアアア!!!」

それによりリブットの光線を受けるシルバゴンだが、シルバゴンは自慢の防御力を生かして光線を浴びながらも真つ直ぐリブットに向かって歩いてくる。

『くっ………ハアアアア!!!』

しかし、気合いを入れ、さらにリブットは光線の威力をあげ……徐々にシルバゴンの身体から火花が激しく散る。

「グウウ………グアアアアア!!!」

やがて耐えきれなくなったシルバゴンは爆発し、リブットはシルバゴンの撃破に成功するのだった。

『後は頼んだぞ、ニュージエネレーション達!』

*

ディアスは両腕に爪形の武器を生やした「ダブルメフィストクロー」を装備し、右腕のメフィストクローで攻撃してきたドライの腕を左手で掴みあげ、右拳をドライの腹部に喰らわせる。

『ダアア!!』

すると今度は背後からファウストとカオスウルトラマンがディアスに向かって飛びかかり、2人同時にディアスの背中を殴りつけてディアスが軽く吹き飛ばされたところをドライの振るったメフィストクローに斬りつけられ、胸部から火花を散らして地面に倒れ込むディアス。

『デヤアア!!』

『グアア!!?』

さらにそこから腕をL字に組んで放つ「ダーキングショット」をカオスウルトラマンがディアスに撃ち込み、ディアスは爆発の炎の中に消えるのだが……。

『あんまり調子に乗るなよ?』

『ウルトラライド！ ウルトラセブン！』

炎の中から1本のブルーメラン、「アイスラッガー」が飛んで来てカオスウルトラマン、ファウスト、ドライの3体を斬りつけ、さらに炎の中から真紅のファイター、「ウルトラセブン」に姿を変えたディアスが飛び出し、強烈なパンチをカオスウルトラマンの顔面に叩きこむ。

『グアアア!!?』

『デュアア!!』

Dセブンはアイスラッガーを頭部に戻すとそこからさらに連続でパンチをカオスウルトラマンに叩きこんでいき、最後にアツパーカットをカオスウルトラマンの顎に食らわせるとカオスウルトラマンは殴り飛ばされ、Dセブンは両腕をL字に組んで放つ「ワイドショット」をカオスウルトラマンに撃ち込み、カオスウルトラマンは爆発。

『デュアア!!』

『ウグアアアアア!!?』

そこへファウストが右腕を突き出し、衝撃波を放つ「ダークフラッシュャー」をDセブんに放つのだが……。

『ウルトラライド！ ウルトラマングレート！』

光線を空中に飛んで躲すと同時に今度はカラータイマーが三角状なのが特徴的な巨

人、「ウルトラマングレート」に姿を変えると拳から連続でして放つ光線「ナツクルシューター」をファウストに撃ち込む。

『ウガアアア!!?』

『ハアアア、シエア!!』

最後に空間の一点にエネルギーを集中させてエネルギーを生み出し、高熱火球を発生させて敵にぶつける「バーニングプラズマ」をDグレートは3連続で発射し、それらを全てファウストに直撃させるとファウストは耐えきれずに爆発。

『ガアアアア!!?』

『デヤアア!!』

ファウストを倒すと今度は高速接近してメフィストクローを超高速で突き出して攻撃してくる「ダークフアランクス」をドライが繰り出し、Dグレートは対応しきれずに直撃を受けて空中から落下し、元のディアスの姿に戻ってしまう。

『ヌアアア!!?』

『ダアアア!!』

そのままドライは急降下しながら両腕のメフィストクローを突き出しディアスに特攻するが、ディアスは右腕の「ネオディアスブレス」から出現させる「ディアスブレード」を出し、すれ違いざまにブレードを振るう。

それにより、ドライのダブルメフィストクロウが破壊され、さらにはドライ自身もブレードによる斬撃を浴び、火花を散らしながら吹き飛ばされる。

『ウアアアアア!!?!?』

ブレードを消すと、ディアスはネオディアスブレスにエネルギーをチャージしてから腕をL字に組んで放つ。「デイメンションバースト」をドライに向かって発射。

『ハアアア、シエアア!!』

『ウグウ………ウアアアアア!!?!?』

直撃を受けたドライは耐えきれずに爆発四散し、ディアスは視線をギンガ達に移す。
『どうやら、俺達の力はいらないうるだな』

*

挿入歌「Ultra Spiral」

『ウルトラマンタロウの力よ！ ネオストリウム光線!!』

ギンガは両腕をX字に組んで放つタロウの必殺光線、「ストリウム光線」の強化技「ネオストリウム光線」をキラードィアスに向かって発射。

キラードィアスはそれを両腕を交差して光線を受け止め、強く腕を振るって強引にかき消す。

すると今度は空中からクリスが飛行ユニットから多数のホーミングレーザーを一斉射撃する「MEGA DEATH PARTY」でキラードィアスの顔に向かって集中砲火。

「持っつけダブルだツ!!」

『ぬあああ!!?』

それによってキラードィアスに大きな隙が出来たのを見逃さず、2本のアームドギアを合体させ、三日月型の刃を左右に備える大型の鎌を形成する「対鎌・螺Pうん痛エる」を構え、ビクトリーはナイトティンバーのポンプアクションを2回発動し、刀身に光を纏わせ、必殺技「ナイトビクトリウムブレイク」を発動させる。

そしてビクトリーと切歌は共にキラードィアスに向かって行き、2人同時にアームドギアとナイトティンバーでX字にキラードィアスを斬りつける。

『ナイトビクトリウムブレイク!!』

「デエエエス!!!」

『グウウウ?!? ウアアアア!!!!』

それでもキラードィアスは倒れず、後ろにいたエックスに気付いてエックスを捕まえようと右腕を伸ばすが……時雨アーマーを装着した「電脳怪獣 サイバーゴモラ・時雨アーマー」が出現し、キラードィアスの腕を受け止める。

「行くよ、ゴモラ!!」

「グルアアアア!!」

その頭の上には時雨が乗っており、時雨とサイバーゴモラはそのまま身体全体にエネルギーをチャージし、一気に相手に放出する「EXハイパー超振動波」を炸裂させ、キラードィアスの右腕に大ダメージを与える。

「EXハイパー超振動波!!!」

『ウグアアア!! ウルアアアア!!!!』

それに逆上したキラードィアスは胸部のカラータイマー部分から放つ強力な光線「ダークブラスター」をサイバーゴモラと時雨に撃ち込むが、それをエックスがベータスパークソードを振るって放った斬撃に真っ二つに切り裂かれ、真っ直ぐキラードィアスに斬撃が向かって行き、そのままキラードィアスに直撃。

『ぐっ?!?』

『今度は俺達の番だ!!』

『行くよお兄ちゃん!!』

今度はオーブが回転ノコギリ型の刃のある武器「オーブスラッシュャー」を、ティガがゼペリオンカリバーで2人同時にジャンプしてキラードeiasに向かつて行き、2人は大ぶりにオーブスラッシュャー、ゼペリオンカリバーを振るってキラードeiasを斬りつける。

そこからオーブはオーブスラッシュャーのスライドタッチを3回ブーストスイッチで発動し、光の巨大な鋸のようなものを飛ばす「トリニティウム光輪」をキラードeiasに繰り出す。

『トリニティウム光輪!!!』

しかし、キラードeiasはそれを両手で受け止め、オーブに向かつて投げ返す。

だが、それはティガが振るったゼペリオンカリバーで弾かれる。

『今度は私だよ!!』

ゼペリオンカリバーを一度地面に突き刺すとティガが身体を一瞬紫に輝かせると一気にキラードeiasの目の前にまで迫り、ジャンプすると今度は身体を一瞬赤く輝かせ、強烈なパンチがキラードeiasの胸部に叩きこまれ、キラードeiasはバランスを崩して倒れそうになるが………なんとか持ちこたえる。

『なっちゃん!! 一緒に!!』

『うん!!』

ギガファイナライザーにジードの全エネルギーを集中、増幅させて、三日月型の巨大な切断光線を放つ「クレッセントファイナルジード」をジードはキラードeiasに向かつて放つ。

『クレッセントファイナルジード!!!』

さらにダイナはソルジェントクロウのトリガーを1回引き、クロウを前に突き出して放つ槍状の光線「ソルジェントスピア」を放ち、ソルジェントスピアはクレッセントファイナルジードと合体して手裏剣のような形になった「ファイナルソルジェントストラッシュ」となり、それがキラードeiasに直撃して大ダメージを与える。

『ファイナルソルジェントストラッシュ!!!!』

『ヌアアアアア!!!!』

最後にグルーブがキラードeiasに向かつて行き、両手の拳を突き出す度に光弾がキラードeiasに撃ち込まれ、それと同時に通常満開時の時よりもさらにより巨大で砲門の増えた空中戦艦に乗った東郷の砲撃が連続して発射。

『ヌグウオオオ?!』

『『ハアアア、タアアア!!!!』』

さらに胸部にあるクリスタル、ブレストシャイナーから3本の光線「デルタブレスト

ランサー」をグループは放ち、同時に東郷も空中戦艦にエネルギーをチャージしてより強力な砲撃をキラードィアスに向かって発射。

『『デルタブレストランサー!!!』』

「つてえー!!!」

『ヌグウウウ……ハアアアア!!!』

しかし、キラードィアスはそれを耐えきるが、グループはそのことにあまり驚かず、すぐに次の攻撃を行う為に空中へとジャンプ。

それと同時に友奈も跳び上がり、強力な跳び蹴り、「全部乗せ勇者キック」をキラードィアスに繰り出し、グループは急降下して放つ「グルーピングインパクト」を繰り出す。

『『グルーピングインパクト!!!』』

「勇者あ!!! キイイイイック!!!」

2人の攻撃を両腕を交差して防ごうとするキラードィアスだが、耐えきれずにキラードィアスは大きく吹き飛ばされてしまった。

『グアアアア!!!』

一方でゼロはゼロダークネスに向かって紫色のエネルギーを纏った目にも止まらぬ連続パンチ「ゼロ百裂パンチ」を炸裂させ、空中へとゼロダークネスをそのまま殴り飛

ばす。

『ウアアア……!!?』

それによりゼロダークネスは地面に倒れ込むが、フラつきながらもなんとか立ち上がり、ゼロダークネスは左腕を伸ばした後に両腕をL字に組んで放つ「ダークネスゼロショット」を発射。

『ワイドビヨンドショット!!』

それに対してゼロも左腕を伸ばした後に両腕をL字に組んで放つ「ワイドビヨンドショット」を発射し、ゼロダークネスの光線をあつかりと押し返して直撃させ大ダメージを与える。

『ウグアア?!?』

最後にゼロは頭部の4つのスラッガーを2本ずつ合体させ、三日月状の剣「ビヨンドツインエッジ」を両手に持ち、ゼロダークネスに向かって行く。

『俺の刃を刻み込め!! ツインギガブレイク!!!』

『アガ……ガアアアア!!!』

『フン、偽者が本物に勝とうなんて、2万年早いぜ!』

そしてツインエッジでゼロダークネスをZ字に切り裂き、それを受けたゼロダークネスは身体中から火花を散らして爆発。

『光を、力を、魂を、ぶっ放して!!』

『切り刻むことなどできない夢を俺達は守る!!』

両腕を前方で交差させた後、S字を描くように左右に大きく広げてから腕を構え、左腕は右肘に拳を当てる構え両腕をL字に組んで発射「ギンガクロスシユート」をギンガをキラードェィアスに向けて発射。

それと同時にビクトリーもキラードェィアスに向かってナイトティンバーのポンプアークシヨン3回行い、立てたナイトティンバー・ソードモードのトリガーに左腕を当てて十字を組み放つ必殺光線「ナイトビクトリウムシユート」を放つ。

『ギンガクロスシユート!!!』

『ナイトビクトリウムシユート!!!』

『ヌグウウウウウ!!! ハアアアア!!!』

ギンガとビクトリーの光線を同時に喰らうキラードェィアスだが、キラードェィアスはそれを耐えきる。

「どんなに辛くても、どんなに苦しくても!!」

「信じ合える仲間と未来を切り拓くデス!!」

またそれに続いてタイミングでガトリングガンに変形させたアームドギアと腰部ミサイル射出器の展開に加え、背部に大型ミサイルを左右に各2基、計4基を連装する射

出器を形成し、それを発射する「MEGA DEATH QUARTET」をクリスはキラードディアスに向かって繰り出す。

クリスの放ったミサイルやガトリングによる攻撃の嵐に、キラードディアス怯み、その隙に切歌が3枚の刃が付いているアームドギアを振り回し斬りかかる「終虐・Ne破 aア乱怒」をキラードディアスの胸部に向かって炸裂させ、火花を散らしてフラつくキラードディアス。

「哀しみも、時も、夢も．．．!! 全てを抱きしめて!!」

『まぶしい未来へと飛んで!!』

『僕たちは諦めちゃいけないって強さを持つ!!』

エックスはベータスパークソードを弓矢形態に変形させ、矢を引いてエネルギーをチャージして一気に放つ「ベータスパークアロー」を放つ。

それと同時にオーブはオーブスラッシュャーのスライドタッチを2回行い、オーブスラッシュャーでV字を描いた後、それを円で囲むようにしてから放つ「トリニティウムシユート」を発射。

全身を発光させながら赤黒い稲妻状の光子エネルギーを両手に集中させた後、腕を十字に組んで放つ「レッキングノバ」をジードはキラードディアスに向けて繰り出す。

「ベータスパークアロー!!!」

『トリニティウムシュート!!!』

『レッキングノバ!!!』

エックス、オーブ、ジードの光線を受け、大ダメージを受けるキラードィアス。

「1人では勧めない時があつても!!」

『世界中が信じてくれる限り!!』

『私達は強くなる!!』

さらに時雨が再びサイバーゴモラ・時雨アーマーを召喚し、時雨はサイバーゴモラの頭に乗るとサイバーゴモラの胸部と自身と時雨の両肩の砲門にエネルギーがチャージされ、それを放つ「EXバーストサイバー超振動波」を放つ。

「EX!!! バーストサイバー超振動波!!!」

またティガはゼペリオンカリバーを掲げ、それに炎、水、風、土のエネルギーを集めて纏めて相手に向かって放つ「エレメンタルゼペリオン光線」を発射。

『ハアアア、チェア!!!』

続けて、ダイナはソルジェントクローのトリガーを3回引き、相手の頭上に向かって光弾を発射し、それが雨のように相手に降り注ぐ「ソルジェントシャワー」を放つ。

『ハアア、シヨア?ア!!!』

『ぐあああああ!!!』

時雨とサイバーゴモラ、ティガ、ダイナの技を同時に喰らい、身体中から火花を散らすキラードィアス。

『未来を繋ぐため私達は何度でも立ち上がります!!』

『約束なんてなくても、俺達の心は通じ合っているから!』

『俺達はまたねって言える明日への道しるべを作るんだ!!』

『『グルーピング光線!!』』

そして全エネルギーを込めて放つ十字型の必殺光線「グルーピング光線」をヒナタ、良、春木が叫びながらキラードィアスに向かって発射。

「決して明日を諦めない!!」

「この奇跡は、決して嘘じゃない!!」

「私達の描ける可能性は、無限なんだ!!!」

同時に東郷は砲門にエネルギーをチャージしたまま自分は離脱すると同時に戦艦をキラードィアスに特攻させ、同じく友奈も拳を握りしめてキラードィアスに向かって放つ強力な衝撃波「全部乗せ勇者パンチ」をグループの攻撃と同時に放つ。

「行けえええええ!!」

「勇者あ!!! パアアアアアンチ!!!」

グループ、友奈、東郷の攻撃を受け、大ダメージを受けて吹き飛ばされるキラードィ

ンヒーローズ&ヒロインズはギンガのストリウムプレスにエネルギーを分け与え、ギンガは黄金に輝く炎に包まれる。

「決めるコウマ!!!」

『おうよクリス!!!! 行くぜ!! スーパーニュージェネレーション……ダイナマイト!!!』

挿入歌「キラメク未来く夢の銀河へく」

そのままギンガはキラードエイアスに向かって突っ込んでいき、その全身の炎で相手を貫く「スーパーニュージェネレーションダイナマイト」を繰り出す。

『これが俺達!!!』

『ニュージェネレーションの力だ!!!!!!』

ギンガに続くように、クリス達がそう叫ぶとキラードエイアスの身体が炎に包まれ……ギンガはキラードエイアスの身体を貫き、キラードエイアスは爆発。

『ヌウウウウ、ウワアアアアアアアアアア!!!!!!』

*

ギンガ達はそのままダークキラーとダークディアスの城から脱出し、白い空間を作り出し、友奈や時雨等のサイズに合わせる為、基本形態に戻って等身大になると、緊張の糸が切れたように友奈が尻餅をついたのだ。

「はあー、やっと終わったねえ……」

「んだよこの程度！ だらしねえぞ？」

そんな友奈を見てクリスが呆れるように言うのだが、彼女自身も結構息が上がっていたりする。

「クリス先輩も結構しんどそうじゃないデスカ」

切歌にそう指摘され、「うるせー！」と怒鳴るクリス。

またゼロはディアスがいることに気づき、「よお！」と右手をあげて声をかけてきた。

『久しぶりじゃねえか、ディアス』

『ゼロ、すまないな。遅れてしまつて……』

『気にすんなよ』

ゼロは頭を下げて謝るディアスの胸を軽く叩く。

『なにはともあれ、これでダークキラーもダークディアスももう復活することはできない』

『……ああ、だな?』

ギンガの言葉にゼロが同意するように頷き、またブルは深い溜め息を吐きながら自分達に心配をかけたことをグリーンジョに怒る。

『全く、心配したんだぞヒナタ?』

『ご、ごめんさい……です』

怒られたグリーンジョは反省するが、だがそれでも無事だったことをロツソもブルも喜び、ロツソは彼女の頭を優しく撫でる。

「それに、ヒナタちゃんも凄く頑張ってたしね!」

「そうね、ヒナタちゃんが闇を払ってくれたから……私達は勝てたのよ?」

『そうだな。いつの間にか立派になって……』

友奈や東郷、ロツソはグリーンジョを褒め、褒められた彼女は照れ臭そうな様子を見せる。

『しかし、まだ安心するには早いぜ。この件には黒幕がいる。その黒幕がグリーンジョを襲ったのは、お前達をグループにさせない為だ』

そうゼロから話を聞き、「えっ」と戸惑うロツソ、ブル、グリーンジョ。

『でも、グループの存在を知っている奴って……!!』

「本人達以外なら、私やペガくんになっちゃうだけの筈……」

グループの存在を今現在、知っている者と言えば一緒に戦ったことのあるジードに、それを目撃していた千歌やジードの仲間のペガに勇者部のみんなと南兄弟の両親くらいしかない。

ならば誰かと考えるジードだが……もう一人だけ、思い当たる節がある人物がいた。

『……まさか……!!』

『そう、そのままかさウルトラマンジード?』

そこへギンガ達の元に現れたのは……グループと戦ったことのある戦士、「ウルトラマントレギア」であり、それにロツソ、ブル、グリーンジョ、ジード、千歌は驚きの声をあげる。

『トレギア!!? 貴様、生きていたのか!!』

『トレギア? 何者だ?』

オーブがロツソ達に問いかけると、それにロツソとジードが応える。

『前に、俺達が戦った……』

『闇の、ウルトラマンです……!』

するとトレギアはジードの発言を聞いてどこか不快そうな様子を見せる。

『そうやってお前達は、片方の直面からしか物事を見ない。この世界には、正義も悪も

ないと言うのに……。やはり、消すしかないな。タロウを、光の国を……。』
『光の国を!? お前、なにをするつもりだ!?』

ジードがトレギアに質問を投げかけるが、トレギアはそれには応えず、背後に出現させた魔法陣の中に消え、立ち去るのだった。

『チツ、逃げやがったか』

『すぐに追いかけてよう!!』

『うん!! よーし行こう!!』

夜空の言葉に穂乃果が同意して頷くのだが、「いや、ダメだ」とオーブが引き止める。

「えっ、なんでなのお兄ちゃん!!? って……ん?」

そこで、穂乃果はあることに気がついた。

自分が、いつの間にかティガの姿から元の人間の姿に戻っていることに。

「変身が解除されてる!？」

「えっ? あ、ホントだなんて!？」

そのことに千歌も気がつき、見ればクリス、切歌、時雨、友奈、東郷もシンフォギアや機装、勇者服を着ているが基本形態に戻っていることに気付き、そのことについてディアスから説明が入る。

『「ニュージェネレーションプレスの力を使ったからだろうな」』

ディアス曰く、ニュージェネレーションプレスはエクストライブや大満開、エレメンタルタイプやサンシャインタイプなど、本来ならあり得ない形態や特定の条件で発動する姿を強制的に発動させてしまった為、その反動で穂乃果や千歌の場合は変身が解け、他の者は強制的に元の姿に戻ってしまったのだという。

さらに、反動はそれだけではなく、彼女等自身体力が大きく消耗しているだろうとのことである、時雨や東郷など若干足がフラついていたりする者がチラホラおり、彼女等はトレギアを追いかけることができそうになかった。

「でも、ここに来てたなら最後まで……!!」

『無理すんな、穂乃果。俺達だけでなんとかして見せるさ』

オーブは穂乃果の頭を軽く撫で、そう語りかけるのだが……ムスつとした表情を浮かべ、穂乃果は不満そうだった。

『でも、私は平気ですよ？ だから!!』

『いや、ヒナタもダメだ!』

『そうだ、地球に戻っていてくれ』

グリージョは自分もトレギアを追いかけようとするのだが、それをロツソとブルに引き止められ、不満げな声をあげるグリージョ。

『なんでですか?! 私がいたら、足手纏いですか?!』

『そうじゃない。俺達がいけない地球を、守って欲しい。俺達の地球は、まだまだ色々大変なことが多いからな』

『そんな地球を、お前に任せたいんだ。なにせヒナタは、ウルトラウーマングリージョだからな?』

しかし、地球に帰るようにはグリージョに地球を任せる為であり、ロツソは友奈達にもグリージョのことを頼む。

『もしも何かあれば、東郷や友奈もヒナタのサポートを頼む』
「勿論ですよ、先輩ー」

ロツソの頼みに東郷や友奈も力強く頷き、また時雨はエックスの胸にポンツと手を軽く置く。

「僕もついて行けそうにないや。ごめんね?」

「時雨が謝ることじゃないだろ? 先に帰って待っていてくれ」

「うん。ご飯でも作って待つとく」

エックスとユナイトしている夜空と時雨はそう話し合い、そして次元を超える力を持つゼロとディアスがクリス達を元の世界に送って行ってくれると言う。

『俺達がクリス達を元の次元まで送って行ってやるよ』

『ギンガやジード、君たちとはゆっくり話したかったが……それはまた今度だな』

自分と能力や境遇が似ているギンガやジードとまともに話す時間が無くてどこか残念そうにするディアスだが、今はゆっくり話している時間はない。

『ギンガ、みんな……気を付けろよ?』

ゼロはギンガ達にそう言うのとギンガが代表して「ああ!!」と頷く。

「みんなの足、引つ張るんじゃないデスよ零無!」

『引つ張らねえよ!!』

「なつちゃんも、気をつけてね?」

『うん、なるべくすぐに帰るから』

そんな風に切歌とビクトリー、千歌とジードが話し、またクリスもギンガへと話しかける。

「あの仮面野郎、ぶっ飛ばして来い。　コウマ!」

『クリス……。　ああ、勿論だぜ!!』

それからゼロとディアスが手分けをしてクリス達を元の世界に送り届け、最後にゼロがグリーンジョ、友奈、東郷を連れて彼女等と最初に会った山奥に降り立つ。

『……お兄ちゃん達、大丈夫でしょうか?』

『心配すんな。　アイツ等は強い!　それに……』

『仲間を信じるのも、ウルトラマンの大事な資質!!　ですな?』

グリーンジョの言葉にゼロは「ああ。そういうことだ」と頷き、友奈や東郷も「そうだよ!」と同意するように言葉をかける。

「春木先輩達なら! それに、頼もしい先輩達もいるしね?」

「うん!! だから、きつと心配ないよヒナタちゃん!」

『はい! 私、強くなります。今はまだボロボロだけど…….それでもこの美しい地球を、みんなを守る為に!!』

グリーンジョは地平線を眺めながら彼女は強い決意を胸に、そんな彼女を見て友奈と東郷は互いに微笑み会う。

「私達も、全力でサポートするからねヒナタちゃん!!」

「存分に頼ってね?」

『ありがとうございます!!』

*

場所は戻り……。

『それでは、行きましようか先輩方!!』

『なんとしても、トレギアを見つけないとな!』

ロツソとブルの言葉にギンガ達が「ああ!!」と応えて頷く。

「これは、俺達だけの問題じゃないしな」

『あいつは、光の国を消すと言っていた』

『黙って見過ごす訳にはいかない』

『光の国を、ウルトラマンの故郷を守らないと!』

エックス、オーブ、ビクトリー、ジードがそれぞれそう言い放つ。

『ああ! 俺達の手で、平和を守り抜こうぜ!! 最速で、最短で、真っ直ぐに、一直線にな!!』

ギンガがそう言い放った後、一同は円を描くように並んで全員が拳を突き出し、そしてギンガ、ビクトリー、エックス、オーブ、ジード、ロツソ、ブルの7人はトレギアを追いかけて飛び立つのだった。

New generations
will
return
(ニュージエネレーション達は帰ってくる)

設定集

ダークディアス

黒いボデイに赤いラインが走り、銀色のプロテクターが装着された巨人で「ウルトラマンディアス」というウルトラマンに酷似した巨人。

悪の戦士達を召喚する能力があり、本編ではフィーネ、イーヴィルティガ、テラノイドを召喚している。

キラーディアスになった際もその能力が使われており、ダークメフィストドライ、ダークファウスト、カオスウルトラマンを召喚している。

ただし、召喚できる戦士は3人までという制約がある為、3人以上は呼び出せていない。

またニュージエネヒロインのダークネスを生み出すのが担当であり、本編では黒奈や深海時雨を生み出している。

右腕のダークディアスブレスから出現させる剣「ダークディアスブレード」や光弾、「ダークディアススラッシュ」などの技を使用でき、腕をL字に組んで放つ光線「ダークデイメンションシユート」が必殺技。

暗黒勇者 黒奈

言うなれば友奈のダークネス外見は友奈にそっくりだが着ている勇者服が黒く、さらに闇のエネルギーにより友奈と東郷の2人を纏めて圧倒できるほどの戦闘力を持つ。

精霊バリアの代わりに闇のエネルギーを纏ったバリアを張ることができる。

友奈同様に「勇者パンチ」や「勇者キック」を必殺技として使用する。

最も友奈から奪った力が不完全であった為、満開の力を使うことはできない。

深海棲艦 深海時雨

肌の色などが白く、服も殆ど同じだが少しボロくなっていて全体的に白く、服に一部黒いラインが入っているだけで時雨と全く同じ外見をしており、深海棲艦化した時雨とも言える見た目をしている。

こちらも黒奈同様に闇のエネルギーで強化されており、サイバーカードの力を使うことができる。

ただし奪った力が不完全だった為、モンスフュージョンを使うことはできない。

合体暗黒超人 キラーディアス

ダークキラーの身体が鎧のように変化して分離し、それがダークディアスの足部、両腕、両肩、胸部に装着され、さらにダークディアスの顔がダークキラーに変化しそこから通常の2倍ほどの大きさに変化したダークディアスとダークキラーの2人が融合した姿。

ウルギヤラ本編のダークキラーとあんまり強さが変わっていないように見えるし、終始ニュージエネレーション達に押され気味だったが……。

ストリウム光線の強化技であるネオストリウム光線を強引にかき消す。

トリニティウム光輪を正面から受け止めて投げ返す。

ダークディアス同様に悪の戦士を召喚する。

本編でダークキラーを吹き飛ばしたデルタブレストランサー十大満開東郷の砲撃を受けても耐えきるなど一応確かにパワーアップはしている。だから相手が悪かった。

そもそも相手がヒロインズ共々全員究極形態になっているのだから相手が悪かった。

ニュージエネレーションブレス

ディアスとヒカリが共同で開発したニュージエネレーションヒロインズ専用のアイテム。

主にクリスが装着し、ヒロインズ達の力最大限にまで解放し、疑似的に究極の姿にさ

せる能力を持つ。

そのため、シンフォギアのフォニックゲインの出力を強制的に高めてエクストドライブを使用することができたりする。

さらに本来ならあり得ない形態にすることも可能で、ティガはエレメンタルタイプ、ダイナはサンシャインタイプと呼ばれる形態に変化している。

尚、ティガやダイナの強化形態にオーブやジードの要素が入ってるのは、変身していたのが穂乃果と千歌がそれぞれオーブ、ジードと最も絆が強い為。

そのため、エレメンタルタイプやサンシャインタイプは穂乃果や千歌が変身していないとなれない形態でもある。

ウルトラマンティガ エレメンタルタイプ

ニュージエネブレスによって強化した形態であり、オーブカリバーに酷似したオレンジ色の剣、「ゼペリオンカリバー」を武器に、両肩に金色のプロテクターが追加され、身体の上半身に黒いラインが入った姿をしている。

パワータイプ、スカイタイプ、マルチタイプ全ての能力が同時に使え、さらにオーブ同様に火、水、風、土の力を宿した必殺技を使うことができる。

ただし、一応強化形態ではあるがグリッター程の力はない。

ウルトラマンダイナ サンシャインタイプ

ジードクローに酷似したミカン色の爪型の武器、「ソルジェントクロー」を武器に、身体の色が金色をメインにしたカラーリングに変化し、さらに胸部のプロテクターも変化した。ジードのつり目を思わせるものとなった姿。

本編未使用だがエレメンタルタイプ同様にフラッシュ、ミラクル、ストロングの能力が同時に使え、ソルジェントクローにトリガーを押す回数によって様々な必殺技を放つことができる。

駆逐艦 時雨 EXゴモラフュージョン

ゴモラフュージョンの左腕に装着されたゴモラクローが変化し、「EXゴモラ」の腹部を思わせる盾に変化。

さらに鋭い槍状のものが盾の先に装備され、右腕のゴモラクローがより鋭利なものに変化した姿。

この槍状の物を伸ばして相手に突き刺したり、鞭のようにして振るうことが可能。

またサイバーゴモラ・時雨アーマーを任意で召喚することができる。時雨自身もEXゴモラの能力が全て使うことができる。

大満開友奈、大満開東郷（ニュージエネブレスバージョン）

友奈等は本編最終話で見せた大満開と見た目や名前こそ同じであるが2人ともオツドアイではないなどの違いもあり、全くの別物。

グリッターとグリッターバージョンみたいに全くの別物みたいな感じである。

この大満開はイチイバル、イガリマ、駆逐艦 時雨、ティガ、ダイナ、そして友奈と東郷自身の勇者のエネルギーを加えた状態であるため、友奈の使用した「全部乗せ勇者パンチ」の「全部乗せ」はニュージエネヒロイン達の力のことを指している。

ちなみに友奈は今回、全部乗せ勇者パンチを衝撃波として使用していたりする。

だがそれでも満開を上回る強力な強化形態なのは確かであり、並の怪獣ならば一撃で葬れるほどの力を持つ。

また東郷は満開の時よりもさらに巨大な空中戦艦に乗っており、こちらの砲撃も並の怪獣は一撃で葬れるレベルの威力を持っている。